

出雲風土記解
中

秋鹿郡
楯縫郡 十四丁
出雲郡 二十七丁
神門郡 四十九丁

秋鹿郡

合郷肆

惠曇郷

多太郷

大野郷

伊農郷

以上

郷別里永

神門里

鹿

和名抄郷數合

五丁才

四丁才

三丁才

今才

二丁才

秋鹿郡

合郷肆

里一十二
神戶壹

惠曇郷

本字惠伴

多太郷

今依前用

大野郷

今依前用

伊農郷

本字伊努

以上
○郷別里參

神戶里

南

神戶

伊農郷

秋鹿郡

伊農浦

大海

東

馬場郷

影敷金

隱岐國



アイカトナヅクルユエハグウケ、ニキタアキカヒメミコトニスナレアキカ
所以号秋鹿者郡家正北秋鹿日女命坐故云秋

鹿矣

トイフ
新字訂

矣字例小違○秋鹿ハ和名訓阿以加按小秋鹿日女ハ漁貝
姫形ハたきかひハ和名云白貝訓於富加比あく古事記
云蛤貝比賣と同秋のあと漁のあと通（アモオレオクビ）あ
いかのいとたきのきこ常小通（アキタハイハラツキタチ）爾
雅云貝在水曰蛤こも見えつりさく秋鹿ハ漁貝あく即蛤
貝比賣なり此神大穴持神比焼所をいやし給し夏島根郡
法吉郷小註○鈔云社在秋鹿村蓋此社南側為古之郡家耶
○附云秋鹿日女と法吉郷の宇武賀比比賣ハ同名ふと齋
所も相近し記小蜆貝比賣蛤貝比賣並々天降給し時も
も同じきを思へバ一神二名小傳きつる宇武支ハたき

○從此以東十六町許乃
長江洲清今指呼曰郡
家意郡家薩長江
亦秋鹿一村也

へかひ小ておきの約で字をへとメと通ふを武小轉れつり
蜆貝ハ加幾なりキサの約でカカヒの約でキサヨキバあり

エドモ

惠曇郷郡家東北九里卅步九今一里
九町半餘須佐能乎命御

子磐坂日子命國巡行坐時至坐此處而詔此

處者國雅美好有國形如畫鞞哉吾之宮者是

處造事者詔一故云惠伴神龜三年
改字惠曇

稚を推小書本の誤惠曇ハ鈔云江角古浦武代本郷也蓋意佐田
宮内村可示以入此郷○惠曇訓エドモ倭名鈔小信濃國安曇を
阿都三と訓ふ此記ハ惠伴又惠杼毛社と書たる小依て曇
を杼毛と訓惠ハ畫う或云鞞と畫を書たるより名小負うと云

志能命御將爲坐時即鄉西山狩人立賜而追
猪^キ屏^タ北方^{ヤニ}上^ノ之^カ至^ヲ河内^ノ谷^ヲ而^ニ其猪^ノ之^ヲ跡^ヲ亡^シ失^ス
介時詔自然哉猪之跡亡失詔故云内野然今
人猶誤大野号耳

大野ハ鈔云合於大野村及魚瀬浦大垣村中高宮明神座山爲一
郷河内ハ大野川の河内ニ河を阿ミ誤本有下文宇智社を
式小内神社ト書 和加布都努志能命の和加ハ祢言若比女
若スセリヒメの若同布都ハ劔を振をフキともフルともツ
とも云記小建御雷之男神亦名建布都神豊布都神等見
神武の條ハ乃名云左志布都神亦名甕布都神亦名布都御魂

と有を思ふ劔小依御名少々下國を和平ニ天降給ハ経
津主神ト同神なりむを思へど出雲郡美談郷の傳ハ所造天
下大神御子トあり 跡ハ止米ト訓べし獸ハ足跡を尋るを
止米ト云ハ今も孫人ハ常言なり哥文ヨシムと云ハあれあり
亡失トウツリト訓べし約むとウチヤと云ハ延まバウツロ
フト云ハ吹棄投棄ト云ハおしなりや阿止宇世奴故宇都奴
ト云ハも訓なり

猪和名云一名彘音茅和名井犀尔雅云形似水牛猪頭大腹
有三角字彘云モ如豕ト何モバ猪小似て異品なり此記ハ猪
の夏ハ猪犀二字を用ふるのハ 此郷名内ハ猪字あり亡失
より名ハ負たまハ誤て大野ト云ハ何ラハ小を忌て太小
改ミ類なるべし

伊農郷郡家正西一十四里二百步 出雲郡

和名抄秋鹿郡伊農郷

雲郡諸本
野郷小誤

伊農郷坐赤食伊農意保須美比古佐和

氣能命之后居小誤

天甕津日女命國巡行坐時至

坐此處而詔伊農波夜詔故云足努伊努神龜三年

改字
伊農

伊農郷ハ郡の西坂楯縫小郷鈔云并伊農村田農浦波多浦為
一郷○赤食ハ訓安受枳出雲郡小阿受枳社有伊農と同處
神門郡高岸郷の註意保須美ハ大住比古ハ彦少男の称名
佐ハ志奈の約と品なり又ハ地比廣狭ハ依和氣ハ地を分
ち知リリフ阿受枳ハ伊農の地を領知給小依ハ御名の始
小置て品別と負給なり後ハ御子等の地を分け知し給ふ

依て地名を御名小負給ハ又御子の名を地ハ負ハ常の事なり
さく此神を出雲郡伊農郷の傳小意美豆努命ハ御子と何事
味鉏高彦根神の亦名有るべしハ阿遲須枳ハ遲
綫畧ハ阿受枳と云ふ天甕津日女を楯縫郡神名樋山
ハ傳ハ阿遲須枳高日子命之后天御提日女と何事ハ
の姫神ハ事を尾張風土記ハ丹羽郡吾漫郷阿麻乃弥加都比
賣社ハ見エヌ

○伊農波夜ハ歎息呼詞倭建命乃阿豆麻波夜多知波夜
雄畧紀の阿拖羅陀俱弥幡夜ハ波夜皆同○足努ハ謬衍
一本伊怒小誤若赤食伊努と書くる本ハ隨

神戶里出雲也說名如意宇郡

意宇郡出雲神戶小註鈔云神戶里則
佐田宮内村也迄于庄村常相寺古志

古曾志西濱佐田及島根郡中名分上佐田
下佐田等佐田神領七百貫之地と云

貞觀元年七月後五位下
佐陀神正五位下同九年
四月正五位上同十三年十
一月後四位下

社 佐太御子社

式云佐田神社佐田ハ秋鹿ノ島根の郷社の神名火山
御祖ハ神龜神ハ御子又佐加比比賣御子ハ

加賀神埼の窟小生給し事ハ島根の記ハ末見えず其文曰大神
所産生臨時弓箭亡失余時御祖命願吾御子麻須羅神御子坐者所
亡弓箭出來ころ文を按る小弓箭ハ大神の御靈なるべし其例ハ
記神武段小三島湊之女名勢夜陀多良比賣を大物主神見感あり
丹塗の天ニ化て其姫ヲ娶て生子をとたりいすき姫命こ見
え又山城風土記ヲ加茂建角身命娶丹波國神野伊可古夜日女
生子名玉依日子次曰玉依日女玉依日女於石川瀬見小川川遊為
時丹塗天自川上流下乃取挿置屋邊遂孕生男子云々取外祖父之
名號加茂別雷命所謂丹塗天者乙訓郡社坐火雷命有て天ハ則
御靈なる多相似り○鈔云佐田三社其一社伊佐奈枳乃麻奈子
熊野加武呂乃命一社神魂命御子枳佐加比比賣佐太
大神一社尔々枳命伊佐奈弥命天照大神也云々

北日神
佐田社中諸事詳述玉一
南素等

比多社

式云日田鈔云比多社垂水社
宇多貴社者在佐太官内村

御井社

佐田ヨリ記小大穴
牟遲神稻羽八上

比賣小娶て生子木俣神亦名御井神
祝詞云生井榮井則御井神なるべし

垂水社

鈔云社ハ在佐田
いへて足日山と云へ

首
惠栲毛社在太々幡垣大明神
鈔注誤

足日山郡家東北廿七里佐田小近
水々日ハ同言水分神と思ひ

惠栲毛社

式云惠曇○栲
を様日誤本非

首
許曾志社在後田茂鈔女
曰白縣大明神

鈔云惠曇郷中朝日山七社推現
中也按小朝日山ハ足日山也

許曾志社

式同鈔云佐田古
曾志村大神也

大野津社

式同鈔云大野郷南
潮水許津守大神也

宇多貴社

式同鈔云在佐田
官内村按此社の

前後大野宇知の二社ハ若布都王命狩し給小依て名小負宇多貴ハ
猪のうめきたけふを負り記雄畧段小猪怒而宇多岐依来とも畏宇多岐

大井社

式同鈔云
在名分村

宇知社

式同鈔云大野郷河内谷大神和加布都
怒志乃命也○命の狩場也大野郷小註

鈔河内谷ハ假名ヲイハ
トアリニ大野々々本
河内谷ヲ河内谷ト云
リ用ニテクミナニト假
名アリテミナラン

首
宇知社在太々大野大垣村是也或作内社記云
内野誤曰大野可以證

以上一十所
並在神祇官

惠曇海邊社

鈔云在江角浦俗云辨才天島神社也

同海邊社

鈔云上同所俗云天神宮

奴多之社

之字一本小无

那牟社

多太社

同多太社

鈔云多太兩社者多太鄉岡本村羽鳥大神支田大神也

出島社

一本出馬鈔云西濱佐田村金代大神也記云掃八玉神

首羽鳥神鳥石楠船神

化鷄入海底昨出底之波迹作天八十毗良迦云此社謂加万志呂大神云云ひらかを造る金の代りなり故金代云けむ或人云云

阿之牟社

女嵩野有牟牟年誤所も何きハ阿志牟云鈔云大野与多太之中间大垣持高宮大明神也

田仲社

一本田伊鈔云佐田宮内田中大神祭據田彦命

弥多仁社

地末

首云云弥多仁社弥多美之誤即伊農村高太明神而奈伊農カホス此古佐和氣能命出雲有伊農弥多仁社當下伊農下可記云

阿之年社雲陽志曰大垣村所田大明神也奈孫田彦命

細見社

同下社

鈔云細見社同下社在大野鄉細見谷山趾今權現宮是也

伊努社

鈔云天甕津日女命也稱伊努鄉客天神伊努鄉小註

毛之社

鈔云惠曇鄉本鄉村畑垣大神也

草野社

鈔云大野鄉以西畎谷流水澗社也○下文小草野川草野小就てい草祖鹿屋野姫の社なるべし

秋鹿社

鈔云秋鹿村中比賣二社天神也郡名ハ所小註首云云秋鹿姫八幡

以上一十六所
並不在神祇官

山 神名火山郡家東北九里卅步

高二百卅

丈

依令丈尺

周一十四里

九今一里卅四町

所謂佐太太神社即

在

彼

此山下也

里數ハ鈔本小依諸本高卅步○丈周四里一記鈔云神名火山之麓著所謂佐田大神社也○按出雲國中

神乃山三所あり。かゝるもてふ約り。式の神賀。大和乃大御和乃
神奈備。葛木乃鴨能神奈備。飛鳥乃神奈備。てふ神奈備。小同。皆社在

足日山。郡家東北七里。凡今三十五町。一本正北一里高一百七十丈。周

一十里二百步。足日山ハ鈔云。蓋朝日山。觀音寺。七社。權現之所坐。惠曇社是也。○按垂水社。此所小あり。三。と。通。訂云。神壽詞云。今日能生。日能足。日。

女嵩野。一本女心高野。一本志高野。誤。郡家正西一十里廿步。高一百八

十丈。周六里。土體豐渡。工饒行。ウエルホヒ百姓之膏腴之園矣。

無樹林。但上頭。嶺字。裂誤。訂同意。有樹林。此則神社也。

女嵩野。鈔云。大野与多太之中間。大垣村高宮。大神鎮坐ノ之山名。神社者阿之牟社也。○此山より多太川流。

訂云。林木之誤。上頭。遊仙窟。ヤミノイタキ。ト列

都勢野。郡家正西一十里廿步。野下一本。山字あり高一百一十

丈。周五里。無樹林。嶺。鈔本。峯中有潭。周五十步。羅。本州。云羅

藤秋筍等。摩。一名。荒蘭。和名。加加美。ハギ。タカムナ。チ。鈔本。等。諸。本土。小。誤。物叢生。或叢峙。或伏

水鴛鴦住也。都勢野。鈔云。大野郷。今。杜山。也。○秋鈔本。秋。第。古本。小。あり。

今山。郡家正西一十里廿步。○高云。關文。周七里。鈔云。在。大野郷。

凡諸山野所在。草木。白木。獨活。女青。一名。省。瓢。和名。加波。祿久佐。苦參。

貝母。和名。波々久里。形。似。聚貝。故。以。名。之。牡丹。連翹。伏苓。和名。云。玄中記云。松脂滴入地。千歲。則。為。伏苓。和名。麻豆。保止。

藍漆女アミナ委オミ

本草云女蔵薺一名黃芝和名惠美久

細辛蜀椒ミラノネ ナルハシカミ

能毒藥劑 云蜀椒奈

留波ルハ志加美シカミ和名云蔓椒エミタサ以多知波イタチハ之加美シカミ又云保曾木ホソキ字鏡同異國少蜀國の椒最好

皇國小渡て但馬ハ朝倉ノ也殖初ハ今ハ朝倉山椒名高シ此記ハ椒ハ山主ハるを

蜀椒シカミと書てカミラハ

ヤミツイモヤミカミ

和名夜麻

エビスグスリホトツラニカコワラヒオ

牡丹の字を用たる如

暑預白飲サヨク

加々美

芍藥百部根薇蕨オミ

頭萬藤李赤桐白桐推椿楠松栢槻禽獸則有

鵬晨風山鷄鳩オホワレハヤフサ ヤミドリ ヤミバトキス

鳩キ鈔本雉キ鳩キ雉キハ別ナレド文例

猪鹿兎

飛獺狐獺猴

川 佐太川源二東水源島根郡所謂多久川二水合是也西水源出秋鹿郡渡村

南流入佐太水海即水海周七里有

鮒即水海の三字

周七里ハ古本鈔本同諸本一里ハ誤鈔云東水源出島根郡多久郷今溝武谷西水源出秋鹿郡今中田村中田古之渡村也而本云西源之間也佐太水海今云濱佐太水海是也

至今毎年タタキ浚之南注諸海○按水海南北小流るを以所ハ南水海通流を記北流ハ彫彫鑿彫鑿壁の流惠曇濱小入下文南流長廣を記

入海潮イリウミ一の古本潮諸本潮誤長一百五十步廣一十步

潮を諸本湖小書するハ甚心得るし一本潮より出雲郡園の文小自神門水海通大海潮長參里廣一百廿步と何れハ文義同

山田川源出郡家西北七里湯太南流入于海ユタヨリ山 訂脱改

湯太ハ鈔云多太郷岡本村山名也谷川之水云湯太山

多太川源出郡家正西一十里女嵩野南流入于

海女嵩を諸本女心高三字小書多太川鈔云出多太郷大垣村
女心高野山即經大垣村南流入于海也

大野川源出郡家正西一十三里磐門山南流入

于海水源磐門山ハ鈔云大野郷本谷村山名也○盤
門の傳ナリ書紀天石窟磐戸の類トハ異ナリ

草野川源出郡家正西一十四里大繼山南流入

于海水源大繼山ハ鈔云大野郷山名也ト云
外小傳ナリ草野社ニ小何カ有リ

伊農川源出郡家正西一十六里伊農山南流入

于海此川ハ秋鹿与楠縫の堺ナリ水源
伊農山ハ鈔云伊農郷山名也

長江川源出郡家東北九里卅一步神名火山南

流入于海以上七川長以下山以上十七字諸本闕ナリ一本ト
並無魚矢鈔本ハ此川有テ七川の數小合神名火山前出

池改惠曇字奏又例乱ナリ一の古本ト上小池字を標モ前文ハ本字惠伴
ナリを神龜三年改字惠曇云トある例ナリ此コトナリハ

陂周六里有鴛鴦鳧鴨鰒四邊生

葦蔣管自養老元年以往荷葉自然叢生太多

二年以降自然至失都無莖俗人云其底陶器

信友按蓮池三溺死人アリテ
後其蓮消失セ亦年経テ
旧トク生出し更所々多シ
度、例々有之

三カ
ミタヒ
鳧等類多有也。自古時二人溺死不知深淺

矣。惠曇の訓意ハ、盡輒あるまじき郷の所ヲ註。鈔云池ハ惠曇郷本郷村水
澤也。今埋成耕田。○荷葉ハ芙蓉和名鈔蓮の類ハ入。○莖々和名波

知須乃久木。○鳧ハ字鏡訓弥加和名ハ毛太非と訓。字彙云汲水甌臚を
も字鏡小毛太比と訓。○二年の上小年号脱り

深田池周二百卅步。有鴛鴦。鈔云惠曇郷本郷村今
深田谷防堤之所也。

杜原池周一里二百步。杜ハ字鏡佐加木池ハ鈔云聞在本郷
村内曰畑垣處今無跡矣。ヤハるる

蜂峙池周一里。鈔云在本郷村今峯知池
是也。按蜂峻小テ訓ハチス。

佐久羅池周一里一百步。有鴛鴦。鈔云在
本郷村。

南方入海。方一本元讀付る。ナヨシス。キ。千。二。エ
例鈔本入于海誤。春則有鰯魚須受枳鎮仁鰯

鰯等大小雜魚。秋則有白鵠。鵠大鳥和名云漢語抄古布。
私記久々比。字鏡訓同。

鴻雁。倭名洪岸二。鳥を島小
音和名加利。鳧鴨等鳥。誤本もろ

北大海。島北と何の本ハ上文の鳥を誤し。あの郡東北ハ惠曇濱小始又西北
ハ楠縫の埦伊努浦の著穂島日終地方を表す例ハ島根楠縫

出雲共小
に好じ

惠曇濱。廣を誤濱ハ廣と書。二里一百八十步。凡今十三町。
島ハ周と云文例ニ。鈔云自江角

濱亘眺於古浦魚窟。之路程大度相應。東南並有家西野北大海即自浦
作應是西野北大海自浦至千在家之間者蓋指古浦之近故

至于在家之間鈔云蓋指古津浦四方並無石木猶白沙之

積ヒカ大風吹時其沙或隨風雪零或居流蟻散掩カゼノミヅノユキノゴトクニマリ

覆桑麻即有彫鑿磐壁二所エリホリイハカベ一所厚三丈廣一丈高八尺一所厚

一丈二尺廣鈔本こ又一本ハ三所と云々其中通川北

流入大海川東島根郡也自川口至南方田邊

之間長一百八十步廣一丈五尺源者田水也

上文所謂佐太川西源是同處矣上文ハ彫鑿盤壁二所の北流を記

島根と秋鹿の境小下下文ハ渡村田水北流を記盡楯縫郡境と阿

凡渡村今中田村田水南北別耳南流ハ佐田北流ハ彫鑿古老傳云島

根郡大領カミ社部コンベ臣訓麻呂オミクニミ之祖波蘇等依島根郡の連署小注

稻田之滂所彫堀也起浦之西磯盡楯縫郡境

自毛埼秋鹿楯縫之間濱壁等盤壁等の落文崔嵬雖風之靜

往來船無由停泊頭矣ハツルトコロナシ

鈔云彫鑿磐壁三所者風沙埋作無何有徒聞在古浦与江角之中路古今稼穡之道是國之大本呼波蘇之勞可思見矣○自毛ハ蓋日宅

の誤り。北浦小比多社より式小日田と書。又楯縫郡自毛埼を内
宮本小日字を書。一本目小誤。自毛の訓も心得。日它埼なるべし

白島

生紫一本紫菜苔菜。文例紫菜とて。苔字ハ以所
耳なり。和名紫菜。無良佐木乃里。俗用紫苔。

御島高六丈周八十步

有松三株

鈔云。白島御島。共在大
野。郷魚瀬浦島名也

都於島

磯。鈔云。都於島者。御島
同所。今曰大國島也

著穂島

生海藻

鈔云。著穂島在伊努郡
即伊努浦二島之名也

凡北海所在雜物鮎

鮎。和名鮎魚。とて。鮎魚。鰻魚を漢語抄
比之古以和之。字鏡如々夫と訓。此記

阿由小年魚の字を用
鮎ハ阿由よりなり

沙魚

和名

佐波

字鏡云。鮎。佐波。和
名云。鮎。阿乎佐波

烏賊

鰐

魚

鰐ハ鰐の誤り。此海小布久閉多。何り
和名鰐鰐を布久と訓る

螺

辛螺。螺
子。落文

貽貝

和名伊加比
一名黒貝

蚌

和名波
万久理

甲羸

和名海羸。豆比
又棘申羸。字仁

石華

華を草小誤
石華。和名勢

騾子

一本騾。又騾。又
騾。字各異

海藻海松紫菜凝海菜

通

通島根郡堤佐太橋八里二百步

凡今一里七町
六十歩之二

通楯縫

郡堤伊農橋一十五里〇〇歩

凡今二里三町。諸本脱文
按通度一十五里一百歩

百本按五里ノ下二古
本百字アリ

郡司主帳外從八位下勲業日下部臣

大領外正八位下勲業刑部臣

早
オサカベ

權任少領從八位下 蝦部臣

タキヒ

○勲ハ勲位業ハ得業生前註

○日下部ハ姓氏録河内皇別云彦坐命子狹穗彦命之後也津國神別云阿多御手犬養同祖火闌命後也古事記序云日下部謂玖沙訶諸本日下を早誤部ハ牟礼の約也是郡司日下部臣ハ都人なるもの續日本紀二十天平九年云陸奥大掾正七位下日下部宿祢大祿呂と云人を見えり又古老云遠江國の大河小大蛇すゝて害を日下部大掾と云人彼大蛇を殺てより後國平安小成しと云故於呂社坐又日下部の像を貴る山寺も若此郡司同人

○刑部ハ姓氏録津國神別云刑部首蝦部同祖大明命十七世孫屋主宿祢之後也和名云遠江國引佐郡刑部訓於佐加幣其もとハ大后忍坂之大中津姫の御名代なる事古事記允恭段日本紀共小同○蝦部ハ島根郡の連署小註

楯縫郡

合郷肆里一 餘戸壹 神戸壹

佐香郷

今依前用

楯縫郷

今依前用

玖潭郷

本字忽美

沼田郷

本字努多

以上肆郷別里參

餘戸里

餘戸脱る本あり

神戸里

和名抄郷數合

廿丁ウ

全



百樹按蹤字一
古本无
訂云五百字十十
字誤字

父テヌヒトナツクルユエハカミムスビノミコトノリ玉ハクヤタルアミノヒスヨノミヤノ
所以号楯縫者神竈命詔五十足天日栖宮之蹤

信友子身辨純持而宮造
地ノ綴横ノ地取ヲセル部ヲ造
ル古云今モ水龍トテ百間ニ百
間ナド綴ノ長ヲ定メテ一間コトニ

百木按字一古本而
ト作リ
△綴ヲ結ビ下ケテ間毎ニ青色布
色ナドノ本綴織ヲ製テ結ビツケテ

百木按奉詔而字
一古本奉詔而字
ニタ鳥字鳥トアリ

△所段ヲ量ルナリ件ノ楯縫モ
オホカミノミヤノミヨソヒノ
タテツクリハジメモヒシトコロナリ
ヨリテイニミタルニテタテホコ

下而与此天御量持乎
造奉請而乎
楯部爲而乎天降下給之尔時退下來坐而乎
大神宮御裝束楯造始給所是也仍至今楯梓
造而奉於
皇神等故云楯縫

百木按公字一古本ニ
元ニニタ塊件ノ字
スベテナレ

六ヶ所ノ字信友按古キナ
縁記ナドニ讀キリ印ニ句ノ字ヲ
書ハガキルガコナレ見テリ其字
体ヨクナド書ナレリ以テ
六ヶ所ノ字モ改メ其定ニテ
書タルヲナト誤リテ本文ニ収
タルモノ

又按一本ナリ字ナシ
ルナリナリ予カ後カ分
ニナリナリ

五ノ蹤ハ衍文而字ハ焉字裂誤公ハ古本小元御鳥命ハ古本ト
遠江國惟孝の本、文祿の書、字本みね同、一本御鳥鳥命、一本御鳥
命、鈔本ハ蹤請、あた六ヶ所ナリ字ナリ、字誤も多し、御鳥
も辨カシ、御鳥命ニ何るモトリを讀付、分例ナク、美乎止利乃
美許等ニ訓ハ、倭名小鴨、比衣土利、鷺鷥、志萬豆止利ナリ、のここ
し、鳥を和名加良須ニ訓ナシ、此所ハ加良須の訓ハ思ハ得、以
以風土記彼是見及本九つを合せ、中ハ此所鳥字書ナリ、
三本あり、さし、此御名ハ他の書小見及ハ、他書小ナリ、
此記ハあり、御名も何り、より所ハ、御鳥命を正字ナリ、
○梓ハ銚、皇國ハ古書、梓、字を保許、小用、字鏡云、梓、保已、征戰具
○神竈ハ加微牟須比ニ訓、姓氏錄卷一、高弥牟須比、古事記
小高御産巢日、神神産巢日ニ並ビ、式神賀詞ハ高天、能
神竈命、書紀ハ皇産靈比云、美武須昆、何ナリ、神竈ハ訓ハ、
加三、ミ、ス、ビ、と訓ベキを、重言ハ畧、短言ハ延、例ハ、姓氏錄右京

神別上、神御薨るゝハ正しく、左京神別下、神須比こゝハ畧、
此神ハ高祖神にて、神代ハ此神の詔をして治で、日栖宮造の夏も
高祖神の詔なる夏、古事記日本紀共小同

○十足と登陀流と訓記小大國主神の宮造を、如天神御子之天津
日繼所知之登陀流天之御巢こちまハ高殿なり、杵築宮の昔ハ異
小高かきと聞小登と多と通ひて高足ハ意あるべし、十と登の
一言小かり用、記應神段歌小ちぞのかづぬをみまバモ々知陀流
とある言ハ似と多とこもハ見そなるべし、此の數ミ家の夏
小カ、然バ登陀流とハ異あり、今ハ高足ハ意とす、これと多
なり、バ猶と考へむ、富より賑ふなるの説ハ違へ

○天日栖宮の天ハ称言阿麻と訓べし、阿米阿麻の訓據所を見及
バぬと書紀の訓小よる、定とめる古ハ此唱なり、バ私小讀とし、
古事記小訓註ある心得と多、日栖ハ以そあるなりと師
貞淵、大人のいそ然しハ大國主神のひそあり、此宮形もバある

○縦横ハ地を築堅むるなり、造で建る迄小カ、と詞し
○御量ハ神薨命のみとあり、宮造動好く固め建る御量なり、
式の大殿祭詞、以天津御量、事問とあるも高祖神の御量を持
て、國つ神を問せ給ぬ

○千尋持繩持而百結、八十結、と、柱桁梁垂木迄各結固むる古
此家造のさよなり、大殿祭詞小堀堅、柱桁梁戸牖、錯動鳴事無
久引結留葛目能緩比取曹留草乃噪、無久と多小同、杵築の宮造
此夏ハ前小引如く、記云大國主神曰僕住所者如天神御子之天津
日繼所知之登陀流天之御巢而於底津石根宮柱布斗斯理、於高天
原氷木多迦斯理而治賜者、僕者於百不足八十廻手隱而侍と詔た
り、此き、さて其宮ハ同記云、於出雲國之多藝志之小濱造、天之御舍
而、水戸神之孫櫛八玉神為膳夫、獻天、御饗之時、禱白而櫛八玉神化
鷄、入海底、咋出底之波迹、作天八十毗良迦而鎌海布之柄、作燧、白以
海尊之柄、作燧、并而鑽出火、云、是其所燒火者、高天原者、神產巢日御

縫之白楯シラタテツクラム又當主汝祭祀者天穗日命是也イニシカニツリヲツカサトラムハこある鳥船と鳥の如く
速行を名小負オヒミ御鳥ミトリの命の名義も船れ美乎ミヲ小依ヨなるべしさ
く前小申せし如く祝詞式又此記の傳ハ日柄宮れ夏を穗日命の
御子神の専ら取行ひ給へば此鳥船をミトリフネも造り給ふをやミトリく名
は負給し物と思ひる船の美乎ミヲこ云こ云ハ船先を云うヘサキ齋明紀
童謡小船の艦トモ船相反夏を美鳥能ミトリ陸陀鳥ラタトリ選賦センヒ俱トモこ云とさく又萬
葉集十六の春カモトフネにきつ鳥鴨云カモトフネ船とよも倭名鈔小美乎比岐能布祢フネなる
何れ此神の御名のをふハ當らば書紀ニ云熊野諸手船亦
名鳴船とあるハ出雲國飯石郡熊谷より造り出せる船ハふてハ云
地形ハを見て古のさるを知らるハ此船三保崎へ通ひハ事代主神を借問給
なり意宇郡の熊野ハハ何れハ此御使をも又其船も地も穗日命の御子小據ヨリドコロ所を夏故ハ其據所ハ飯
是小よりく御名小負給うと思へく鳴船の訓思ひ得られハ後ハの
考を待鳴を鳩小書ハトフ不ハと訓と心得ハぬ
○拊繩ハ意宇郡文小註

○楯ハ征戰具倭名云長曰歩楯和名天太天歩兵所持也といひ字彙
云楯所以蔽身扞目紀神武段小鳥見彦と戰給時取所入御船之楯
而下立ハこも見え古語拾遺ハ小これバ楯矛ハ忌部氏の造ることハ不
斗ハ御鳥命ハ宮造の惣てれ夏を司こりくハ襲束おも造り足ハし
給なりハさ身ハこ此神の御手づり造り給ふハあハじ手小業ハて
そ此造るハ伴部ハなること今ハの世小異なる夏なり○前小引ハこ
如く記一書小供造百八十縫之白楯ハこもて此楯を造り給ひハ小
依く地の名は負其所れ入後ハもて楯矛を造ることハなり意宇郡楯縫
郷の傳ハこ相
似て異なり

佐香郷サカノカ郡家正東四里一百六十步二町餘佐香河

内百八十神等集坐御厨立給与今釀酒給与今

十八

之。即百八十日喜燕解散坐。故云佐香。

佐香ハ、鈔云并小佐香惠佐香園村鹿音寺四所為佐香鄉燕會處今
佐香小川也。○百八十神ヲ集神の多を云。記小大國主の兄弟八十
神と云如し。○厨ハ和名久利夜庖屋也と云。食物をつくる所を
と云。惣てハ炊小迄カゝるなり。神賀小伊都開黒益とを思ふ。小
久利夜ハ久呂麻之夜と云。呂之此約と利なり。酒ハ和名佐双
○百八十日と百八十神小對て日數の多をいふ。神賀小八十日日
波在母今日能生日能足日。今と云如き。禱言し
○解散ハ神集小對て始終の詞を収む。

繪縫鄉即屬郡家。

說名南イ即北海濱業梨磯有窟裏。

方一丈半。高廣各七尺。裏南壁有穴。口周六尺。

公王母路程條曰至繪縫郡
家注繪縫郡家今呼曰多
久谷村

徑二尺。人不得入。不知遠近。

繪縫ハ鈔云比天平為郡家并多久谷岡田布崎古井津只浦鹽津等
為郷窟。今俗曰穴之淵。在于只浦。行於船視其穴中。則二町計。白砂
皓潔。不知其幽與深淺。夏云幾許。○業梨磯ハ乃利伊曾と訓べし。乃
利斯社能呂志島等同所也。ナリとノリと音便。

玖潭鄉郡家正西五里二百步。所造天下大。

神命天御飯田之御倉將造給並覓巡行給。

尓時波夜佐雨久多美乃山詔給之。故云忽美。
神龜三手
改字玖潭

和名抄補遺郡玖潭今
本玖潭ニ誤ル

並ハ處を誤、將ハ鈔本ハハ元、玖潭ハ、鈔云、併久多美村、東郷、福村、海
苔石谷、鎌浦、十六島、古津、為一郷、
○波夜佐雨ハ字鏡小凍、又暴雨の字を當りあり、○久多美ハいと舊
名なるべし、大神こゝ小巡行給て、久多美れ名を呼給、小早さめく
だるこ云、つゞけつゝあり、玖潭、二字共小音を、り用、久多てふ
意ハ、むた、めたと同じく、一向なる言なり、忽をク、タ、小用、ハ
宜長云、コツの音の薄し、曇をヅ、三小用、類なり、こ云、○御倉ハ
飯田の穀を、つゝさむる家、

沼田郷郡家正西八里六十歩

凡今一里九町

宇乃治比古

命以尔多水而御乾飯尔多尔食坐詔而尔多

負給之

給之、二字、元本ハ、
落支、古本、こゝ

然則可謂尔多郷

今入

信友抄今、手、上、兩字、凡
本、宜、と、稱、个、誤、字、凡、キ、シ
既、ル、下、大、原、郡、神、龜、文
例、ニ、ヨリ、カ、ク、云、フ

和名抄補遺郡沼田

猶云努多耳

神龜三年
改字沼田

沼田ハ、鈔云、平田、西郷、出来淵等處也、

○郷名、尔多、こ、負、つゝ、を、轉、

三并、ハ、沼田、意、出、雲、大、河、此、地、之、俗、曰、尔、多、河、是、古、之、處、也、

努多、云、その、尔多、と、波、尔多、の上、畧、う、地、此、名、小、負、ハ、後、の、変、お、

尔多、水、こ、ハ、此、地、の、水、と、云、夏、あり、尔多、尔、食、坐、こ、ハ、乾、飯、を、水、の、り、

る、は、一、尔多、一、と、云、食、給、し、仁、多、郡、の、傳、小、大神、此、尔多、志、枳、小、國、

と、詔、給、し、尔多、と、同、く、聞、也、尔多、と、負、セ、給、ひ、し、地、此、名、を、神、龜、三、年、

沼田、と、改、ら、れ、し、ハ、音、の、轉、なり、宜、長、云、尔多、て、ふ、言、ハ、今、俗、言、小、二、

チ、ヤ、ニ、チ、ヤ、ニ、チ、ヤ、ツ、ク、な、り、と、云、一、つ、あ、り、物、の、う、あ、り、し、志、免、と、云、か、

ら、か、つ、と、ハ、無、き、夏、なり、又、あ、へ、物、の、奴、太、と、云、も、こゝ、同、言、の、轉、と、

云、云、也、○宇、乃、治、比、古、の、治、を、沼、と、書、つゝ、本、も、有、治、を、よ、こ、す、海、

潮、持、彦、云、奈、志、保、の、約、也、乃、なり、大、原、郡、海、潮、郷、小、注、

○乾、飯、ハ、倭、名、云、稻、保、之、比、乾、飯、也、餉、加、礼、比、字、鏡、ハ、振、加、礼、比、と、

訓、也、飯、を、乾、て、旅、小、齋、と、云、水、小、り、こゝ、一、つ、あ、り、食、を、う、つ、不、物、語、ハ、

訓、也、飯、を、乾、て、旅、小、齋、と、云、水、小、り、こゝ、一、つ、あ、り、食、を、う、つ、不、物、語、ハ、

をぐる色の強飯云く伊勢物語ふかまのうみの上小涙落してわく
ふらりと云く野がけの食物古今同

餘戸里 説名如意字郡

鈔云萬本庄二村為餘戸里○意字郡餘戸の所
神龜四年編戸と云此所の餘戸落る本も何

神戸里 出雲也説名如意字郡

鈔云此神戸者玖潭郷中海苔石谷六社大神之神戸也
○出雲云くハ熊野と大穴持命の神戸なる又意字郡不註

寺 新造院一所 在沼田郷中 建立嚴堂也 郡家正

西六里一百六十歩 大領出雲臣大田之所造

也 鈔云蓋平田村藥師堂也○大領云く下文小從七位下
出雲臣と見え臣ハ姓大田と名之字无本ハ例不違

社 久多美社 式云玖潭鈔云久多美村五社大神也 多久社

大年神の御母なり尾張風土記中卷云品津別皇子生七歳而不語云皇后夢
有神告曰吾多具國之神名曰阿麻乃弥加都比女吾未得祝若為吾充祝

人皇子能言と云小依小
天張津日女命の社成べし
佐加社 式云佐香鈔云佐香浦
九社大神也

乃利斯社 式云能呂志鈔云久多美郷海苔石谷六社大神而即出雲
神社也上文ハ神戸ハ此社の神戸下文能呂志濱も云

御津社 式同鈔云社在
楠縫郷三津浦
水社 式云水神社一本式下同下文美豆島
鈔云楠縫郷古井津浦三社大神也

宇美社 式同鈔云楠縫郷
鹽津浦大神也
許豆社 式同豆一本足小誤
下文許豆島多

同社

式も許豆二社多。鈔云。許豆二社。楯縫郷大官大神。新明大神兩社也。

以上九所並 九社各 式と合

許豆乃社

又許豆社

又許豆社

鈔云。式外許豆三社。在古津浦和多御崎。昔者三社。今見一社也。

久多美社

鈔云。久多美村。夜麻乃須氣大明神也。

同久多美社

鈔云。同郷福村。飛大神也。以三田也。寛永改。田。

高守社

又高守社

高守二社。鈔云。未知。

紫菜島社

鈔云。久多美郷十六島神社也。以島ハ紫菜名産。

鞆前社

鈔云。未知。

宿努社

鈔云。未知。

埼田社

鈔云。未知。

山口社

鈔云。山口社。楯縫郷多久村。拜田太神也。

葦原社

以下葦原三社。鈔云。共玖潭郷福村葦原谷神社也。

又葦原社

田田社

田田を鈔本又葦原の書。以上葦原三社。

峴之社

鈔云。未知。

阿年知社

鈔云。可在海苔石谷。俗云阿氣堤之社也。○景行紀丁阿。

牟君。姓氏錄左京神別。登智君ハ蓋別。

葦原社

田田社

鈔云。楯縫郷只浦。大神也。

以上一十九所 並不在神祇官

山 神名樋山郡家東北六里一百六十步。高一。百

廿丈五尺。周廿一里一百八十步。

一本一百の字元

鬼小誤

二字无有往字

キサキ
ア
三
カ
ナ

モリ

土

イシカミハ

アミゴヒスルトキハカナラズアメフラセタニオナリ

神名擬

中

都美の轉

の亦名、多伎都比古ハ多伎郷をさしむ。
御名小テ、甕主日子の亦名、形るべし。

阿豆麻夜山郡家正北

鈔本正西
に書ハ非

五里卅步

四十訂卅訂

阿豆麻夜山ハ都宇川の東源、鈔云在
楯縫郷多久谷村、俗云檜仙山也。
ヒキガハセンセ

見棕山郡家西北七里

見棕山ハ都宇川の西源、鈔云久多
見郷海苔石谷村、今高野山是也。

允諸山所在草木蜀椒漆麥門冬伏苓細辛白欬

杜仲人參

倭名人參一名神
草加乃仁久佐

升麻

倭名止里乃阿之久
佐一云宇太加久佐

薯蕷白

薯蕷
署抄

木藤李榧

和名
加倍

榆

和名夜仁礼字
鏡白杉也余礼

推赤桐白梧

ツバキ
桐抄

海榴

前文海
石榴

楠松槻禽獸則有鵙晨風鳩山鷄

雞小
同

猪鹿兎狐

獼猴飛鼯

暑預諸本此所
のミ薯字を書

川佐香川源出郡家東北所謂神名樋山東南流入

于海

佐香川ハ鈔云佐香郷小堰村川也○前文佐香河内ハ
郡家正東四里一百六十步、神名樋山ハ東北六里餘

多久川源出郡家東北神名樋山西南流入于海

多久川ハ鈔云貫楯縫郷多久村与多久谷之中間、流西南入于海○楯縫
出雲大原三郡の河源ハ道程を不記、此所郡家東北を鈔本同の字ハ替

都宇川源二。東川源出阿豆麻夜二水合南流入

于海。都宇川ハ鈔云來久多美村。隔流東郷福村中間南方入于海阿豆麻夜山所謂檜仙也。見掠山所謂高野山也。

宇賀川源出同見掠山南流入于海。鈔云宇賀川源又出高野山西谷分

流宇賀与万田之中路南入于海。○此川出雲之楢縫二郡塙を流宇賀郷ニ宇賀山ハ出雲郡小属近世ハ郡塙異也。

池麻奈加比池周一里一十步。

大東池周一里

赤南市池周一里二百步。按楢縫郷多久村大市祢大神坐大市池。大を又小誤市を一本布小誤地の字を脱

沼田池周一里五十步。沼田郷小多。今考所なり。

長田池周一里一百步。以上五池ハ鈔本考所なり。

南入海雜物等者如秋鹿郡說。秋鹿楢縫ハ入海續雜物も相同南北の海を表す例も前後郡同。

北大海自毛埼。比毛訂。秋鹿与楢縫二郡塙崔嵬。松栢鬱時即有晨風之栖也。

北大海を表す例ハ島根秋鹿楢縫出雲各同以下十島皆北海小多。○自一本目一本目按日它埼。秋鹿郡小比多社も多。時々時々鈔云自毛埼者楢縫郡佐香浦与秋鹿郡伊努浦之塙也云云。

佐香濱廣五十步。鈔云俗用坂浦。

百本按一占本注ノ
栖字ノ下ニ也字アリ

己^コ自^シ都^ツ濱廣九十步鈔云修用古井津字一本九十二步

御津島生紫菜

御津濱廣卅八步鈔云今俗云三津浦

能呂志島生紫菜
鈔云今云只浦○上文乃利斯社を式小能呂志と書又紫菜島社も乃呂志此約で乃利なるは産物を名小負

能呂志濱廣八步

鎌間濱廣一百步鈔一本鎌鎌間ハ鈔云古今无異称

弥豆島長○程周訂イ里二百步廣一里周嵯峨止
有松菜芋

島一本推小誤長下程脱此所ハ出雲郡塙水社有鈔云今十六島浦也此所之紫菜勝諸島故每年季冬月課而充貢

許豆島生紫菜
一本許豆島廟上文許豆社阿是此島无き本ハわろし

許豆濱廣一百步出雲与楯縫
鈔云許豆濱俗云古津浦

凡北海所在雜物如秋鹿郡說但紫菜者楯縫郡

尤優也モトモミサレリ
鈔云十六島之紫菜毎年季冬之月課而充貢称之為紫菜之上品

道通
○秋鹿郡塙伊農川八里二百六十四步通度合通出

雲郡塙一本塙元宇賀川七里一百六十步通度合東西惣十六里一百廿四步

凡今二里
十町餘

郡司主帳无位物部臣

大領外從七位下勲業出雲臣

小領外正六位下勲業高善史一本英一本臣

官位ハ意字郡小註○物部ハ姓氏録河内神別云。饒速日命之後又云
物部首同神子味島乳命之後記神武段小出づるも同景行紀十二年云
物部君夏花又直入物部垂仁紀二十六年小物部十千根大連を出雲
へ遣ハされ神寶を掌らる給ひし夏見えと臣と連ハ別姓成べし
○出雲臣ハ穗日命の後なる夏意字郡注以臣ハ沼田郷小新造院を
建たふ出雲臣大田なるも○高善ハ氏ハ聞たふも高こぞと
ハ姓氏録左京諸蕃小高麗國高助斤之後又見之又高史ハ高麗人此
後わろし見えと史訓フヒト職負令史生倭名佐官と云也

出雲郡

合郷捌二里計カクゴト神戸壹里一本里二

健部郷タケベノサト今依前用

漆沼郷シツヌ本字志司沼

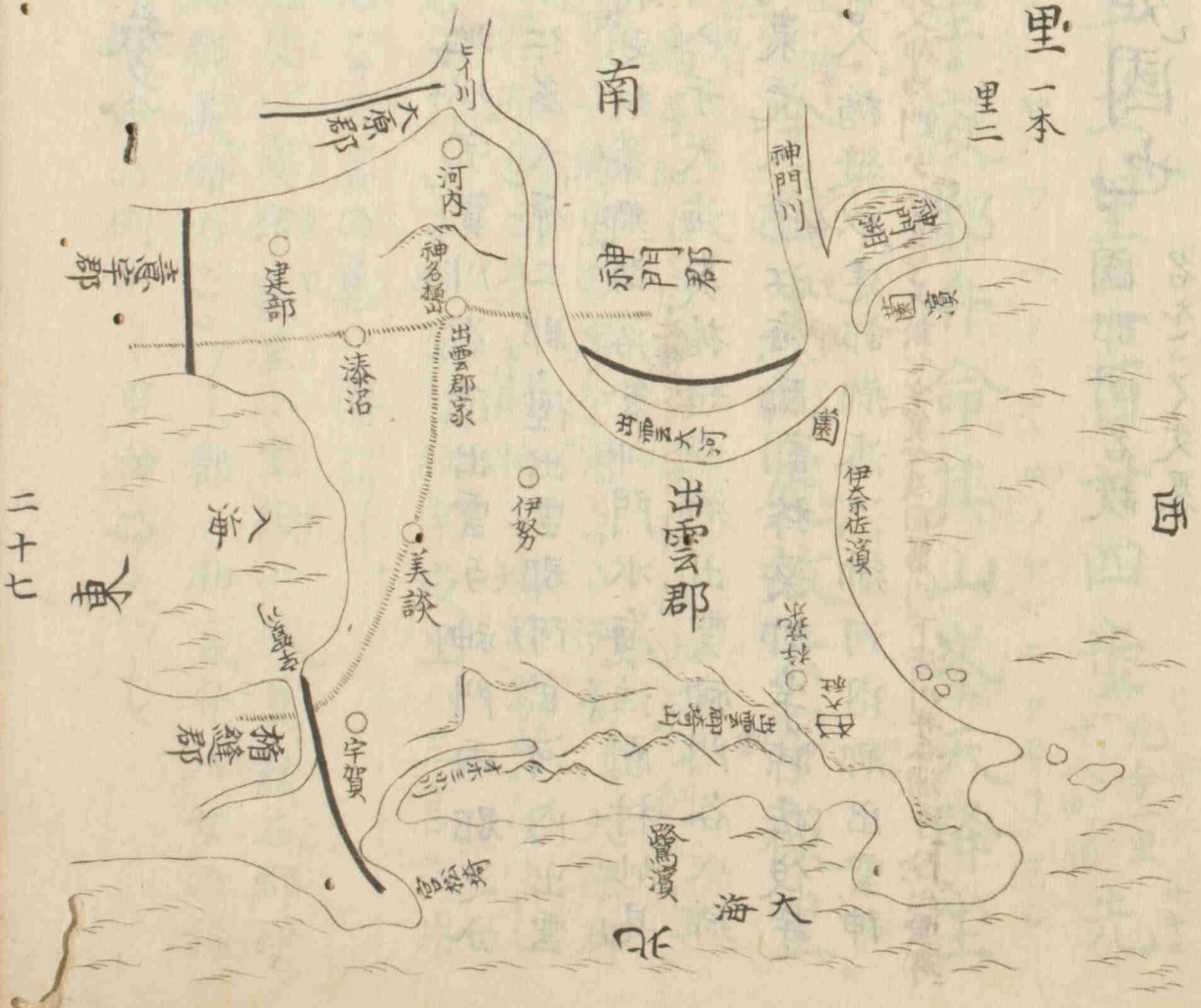
河内郷カフチ今依前用

出雲郷イツモ今依前用

杵築郷キヅキ本字寸付

伊努郷イヌ本字伊農

美談郷ミイ本字三太三



世三丁
和名抄八郷アリテ
記ノ神戸郷ナシ

以上漆郷別里參
宇賀郷 今依里貳
神戸郷 前用里貳

鈔云出雲与楯縫兩郡之分地以宇賀川為限出雲与神門兩郡之分地以出雲川為紀矣以川來仁多大原二郡徑出雲郡阿宮河内出雲伊勢等數所從伊勢鄉西曲折赴梓桑鄉南落會神門水海注園村妙見山与佐須美浦之中間遂西入于大海矣楯縫四郷出雲神門各八郷也其後此川東行今者以川從伊勢鄉轉屈東流入于江海而割梓桑鄉宇峠佐伎宇龍日御崎漆園等處除出雲入楯縫以建部鄉漆沼郷河内郷出雲神戸里等處郡入于神門伊勢美談宇賀及國富川下唐川并春浦等除出雲郡定出雲郡中也

所以号出雲者說名如國也 國郡同名故名をこく文畧

健部郷郡家正東一十二里二百廿四步元今一里サキニ先

所以号宇夜里者宇夜都弁命其山峯天降坐之即彼神之社主主ハ按至今猶坐此處故云宇夜里

宇夜里的里ハ古ヘ郷小用烏屋社訂號ハ何モバ宇夜佐止訓ベシ宇記中地名の謂をいふ所小郷里の字を用うる例あり大原郡神原小可謂神財郷カミタカラコ只一所あり是ハ財物ニ地名おきらひしハ身バ郷字を置いて地名を分ちる物なり故宇夜里ハ三言小用たる地名コ也健部の舊名なり言の意ハ傳なり

○宇夜都弁命ハ他書小見及バ宇夜里小坐給小依夏飯石郡伊毘志都幣命來島郷伎自麻都美命のごころ都ハ助言弁ハ女の稱号小例なり伊毘志都幣命の例小男神伊なり

以山峯天降坐者按宇頭村大黒山兵主大明神

和名抄出雲郡建部郷トアリ
訂云姓氏錄云鳥取郡連云謂出雲宇夜江

以云神庭村有宇屋谷

○其山峯こハ宇夜里の山をさす。此山、後小名変りて神名火と云ふ。
まづ神名火と名を負所ハ貴き神生故なり。秋鹿郡の神名火山
小ハ佐太大神坐、楯縫郡の神名楯山小ハ多伎都比古命の所由也。
健部郷少々山こ云ハ神名火山此外小ハなり。此山の傳ふより、
宇夜都并命ハ伎比佐加美高日子命の亦名と思はる。國造之祖形
るづし。宇夜都并命其山峯天降坐之こハ書紀二卷小皇孫天降於
日向、襲之高千穗峯矣。こより小似たり。天降こハ高きより下小降を
いひ、天小のゐるこハ下より高小至をいふ。○神之社ハ下文小鳥屋
社こよりて宇夜都并命の社也。上文ハ宇夜里
の傳へを記。下文ハ健部の所由をいふ。
シカシ、テノチタケハトヤラシメナヅクルユ正ハ
ミキムクノヒシロノミヤニ
而後改所以号健部之例纏向檜代宮景行天皇宮
和國城上郡、穴師の辺、紀云四年十一月、乘輿自美濃還、則夏都於纏
向云々。古ハ檜原なり。古哥小卷向のひよりこもなり。檜代ハ宮名

御宇天皇景行勅不忘朕御子倭健命之御名。健
部定給。尔時神門臣古称一本弘健部定給。即健部
部定給。尔時神門臣古称一本弘健部定給。即健部

臣等自古至今猶居此處。故云健部

部を諸本郡小誤。鈔本耶小誤。健部郷ハ鈔云。神庭羽根武部學頭吉
成等也。神庭村中在宇夜村。又云有宇屋武部二村。蓋後人留二名呼
之者也。又此郷北方在庄原久木二村。上古水沢中也。近世埋成民居福
富黒目、渕洲中村。是亦久木之支村也。○健部倭名訓太介無倍。

○倭建命ハ古事記云。大帶日子淤斯呂和氣天皇景行御子。小碓命亦
名倭男具那命。亦称倭建命云々。西方熊曾建出雲建を殺多ひ。後
又東國を平和多ひ。歸幸時伊勢國能煩野小到。崩た多ひ。し
諸紀共小同。景行紀四十二年。崩時年三十云々。定武部々見也。姓氏

録右京皇別云、建部公日本武尊之後也。云々。諸國小武部を定むるを、いゝ上代の夏より早く其名も變てたゞ、適残るるハ近江國栗本郡建部神社、美濃國石津郡建部郷、備前國津高郡建部、美作國眞鳥郡建部、下毛野國那須郡建武山神社、下總常陸安房等小建部云郷あるも建部の轉でたる成つし、伊勢國阿濃郡建部太介無倍たゞ、○神門、臣ハ天穗日命十二世孫、鵜瀦命之後、姓氏録に見えり。神門郡小注

漆沼郷郡家正東

○五里

二百七十步

今廿九町半

神龜

命御子天津

津を諸本降
小誤鈔本津

枳値可美高日子命御名又

百木按之下二命宇脫多力

和名抄出雲郡漆沼

云直江村有漆沼大明神祠
別以云白漆沼々直江惣社ハ
漆宮在上直江

云鷹枕志都沼値之

此神郷中坐

故云志司沼

神龜三手

即有正倉

○漆沼郷ハ出雲大河の水東北入海小流き入し時より。社地郷村

共小古ハ小違へり。鈔云以上下直江村為漆沼郷。又有北郷北今中原

坂田三部市村等古者入海。今為耕田又中魚之側在余在家村此旧美焚々
内而天神領田之長供奉坐和布都

○神龜命ハ高祖神小オマセ。こハ穗日命を神龜と申うこ

思ハる。其より次ニ註○御子ハ天津枳値可美高日子命の天々稱
言。津ハ助言。枳値ハ城築ツキの約で予なり。可美ハ神。高日子ハ貴
言。天神の御名ふより。按小穗日命の御子夷鳥命をのく傳へる
る。楠縫郡小御子天御鳥命大神之官造給し事を對見て枳値可
美ハ城築神と云らる。さう神名火山の傳小久比佐加美高日子命

こもも同神カヤカミと國造の祖神カヤカミなり。さうり。ハ伎比佐カヤカミの御名を
末々も負て。古事記垂仁の段ハ。出雲國造之祖名。又比佐都美カヤカミとも
有り。○薦枕ハ將を束ね枕すること。日本紀私記の説を引て冠辞
考小委カヤカミと云也。古書ハ枕高と續けたるを。以所ハ志都沼カヤカミと
つ。けたるハ。靜寢シヅカニスルてハ。こころなり。枕して寢ヌスむ。なり。値ハ男の檢
号彦遲ヒコヂ老翁ラウのちと同。○此郷ハ志都沼カヤカミの御名を添沼シツヌと負。

河内郷郡家正南一十三里一百步。

例めて誤ハ一十二里一百步ハ一本。こ
鈔本を合改。新造院の程ハ鈔本同。
斐伊大河野ヒイノオホカハコノ郷中北流。
此程諸本三百九十七
步。こもハ三百步。為里

故云河内。即有優宜長曰優長一百七十七丈五尺。七

一丈之廣七丈九十
伍丈之廣四丈五尺。

和名抄出雲郡河内
郷
以云上郷村有河内大明神
之祠且上郷船津中野島三
分村之神祠者出西村神
祠之令下也

河内郷ハ。斐伊河東ハ。鈔云并於伊保。岩階。阿宮。及神門郡。中上郷。
船津。中島等六箇村。為河内郷。也。記書上阿宮。於田園村。又書於布目。美峰。又
子。命以處小坐大原郡。○優ハ堤を誤。斐伊河の堤也。事明らうあり。
長の丈尺と合し。誤字有歟。

出雲郷即属郡家。說名如國。

出雲郷ハ。鈔云古郡家。其所在。永院シキ与出西。中間并於出西富村永室
神守等為一郷。○說名ハ卷れ首小註。

杵築郷郡家西北廿八里六十步。八束水臣今今三。

津野命之國引給之後。所造天下大神之宮將。
ツヌノミコトノクニヒキタメヒシノチ。アメノシタツクラシ。オホカミノミヤツカハ

奉与諸皇神等參集宮處杵築。故云寸付。神龜
三手。
ニツラムトモロカミタチ。ミヤトコロニニヤキツトヒテキツキヲカレキツキトイフ。

和名抄出雲郡杵築郷
今本許筑トアルハ誤

改字 杵築

杵築ハ鈔云大社所坐也。故曰杵築々杵築中有今并於宮内越峠市島中村大土地小土地

赤塚假宮等名爲杵築内假宮村古事記所謂建御雷神天鳥船神降

出雲伊那佐之小濱蓋以處也。又按迎濱浦俗傳云伊那佐濱又品牟都

和氣御子行啓于出雲大社之時國造於肥川下仕奉假宮獻大御食

云。自是日假宮也。此外無合日御埼宇龍浦佐岐浦宇峠浦漆園村

等爲杵築郷内又聞手結濱黒田等杵築社領七浦内也杵築郷古出

雲郡今神門郡也。

○八束水臣津野命と八束劔の大身主てふ意宇郡小註。

○大國主神の宮造れ事ハ神賀小依ハ宮造も祭祀も穗日命ふよ

ざし給ふあり紀云當主汝祭祀者天穗日命是也とあるを楯縫郡

此文少々天御鳥命小詔して大國主神の宮造り給ふふしあり御

鳥命ハ穗日命御子建比良鳥命の亦名あるべし以神國造の祖小

て専ら宮造をも祭祀をも主と給へども其造るも此ハ諸神等集と給
ひて造りかためたるなり。

○所造天下大神之宮と書く大穴持を畧くハ楯縫の文と同。

○將下造字關たふが如くなむと官將奉とあれば即造る意小聞也。

○杵築の杵ハ城ニ崇神紀小宮所此名を磯堅城と書万葉集小百

石城又水莖の水城武烈紀小作城像曰城土わづの城同築ハ築地

築垣此類のツキと○附云此宮小大國主神の御魂の鎮と給事を

式神賀小八百丹杵築宮鎮坐云々官地の事を古事記小於出

雲國之多藝志之小濱造天之御舍云々多藝志ハ建ハハ所を云

記小倭建命の成當藝斯形と何る當藝志と同と云々多藝志之小濱

は田所小成と今

武志村等も有

伊努郷郡家正北八里七十二步凡今一里三町餘國引坐意

百木按氣ノ下ニ古本
能字アリ

美豆努命御子赤食

金小

伊努意保須美比古佐

倭氣命之社

一本祖誤
鈔本社祖云

即坐鄉中故云伊努

農小改べし目
録小本字伊

神龜三年
改字伊努

農云云本
字を書例

伊努鄉ハ鈔云并東西林木及神門郡高濱村中久佐加矢尾石臼等

村ヤヲ村
村

迎為一鄉也西林木干伊努谷大明神社此鄉古出雲郡今入楯縫

郡○赤食伊努二所の地名阿受伎社何リアチスキの畧言神門郡高

岸小註此二所を知しけし仍御名の上小負此神の后ハ天甕津日

女命○秋鹿郡小出○社を式ハ伊奴同社比古佐和氣神社何リ

美談郷郡家正北九里二百四十步凡今二里
十三町所造天

此一葉原書ヨリ既ニ漏シテアリシ文化九年信友内山翁ニ乞ケレハ自筆ニ書テオセケル

下大神御子和加布都努志命

秋鹿郡大野郷傳ハ布都努
志能命と書蓋能字脱字

天地初判之後天御領田之長供奉坐之即

彼神坐鄉中故云三太三神龜三年
改字美談即有正倉

美談郷ハ鈔云美談村與今在家村也蓋出雲河東流後美談今在家
阻爲別村遂今在家而云郡美談屬楯縫郡

○所造天下大神ハ大穴持神也御子小和加布都努志命と申神ハ

諸記小見及ハ神と国史小も書風土記延喜式ハ小出たる神

書ハ又云此所ハ田地の初發を云ふて書紀の天地とハ異

なり故天ハ矢の誤とす字彙云矢物禰也意字郡の文小出雲国者

狹布之推国哉初國小所作と云を對凡事を矢天地初判と和加久尔

乃波自采と云ふは、文意ハ土地耕初の事なり。古奈多乃波自
麻利と訓つ。字鏡鑿古奈多の訓も、漢語鈔ハ水田古奈太と云り。
判ハ分也

○御領田ハ美志呂太、説詞式ハ皇神能御刀代とある。シロ小同の長ハ
加美守頭首等の如し。領田之長とハ、倭の屯田司と仁徳紀ハ屯田司
出雲臣之祖淡宇宿禰と云ふ如し。○三太三ハ宣長曰御田長の由
なりと云り。按小御田持リモノ多リなり。此記の弥太弥社と式小美
談と云、次ハ和加布豆智志神社あり。此神大穴持神の領田の長となり
てあり。なりと云。此社のろ美談郷ハ出雲大河古ハ伊智郷より
西の大海ハ流き入ると、寛永の頃洪水出て堤を破り、東の入海ハ
流入其時美談郷同社比賣邊社縣社同和加布都智志社印波社等
共ハ流き失て今ハ跡たふあり。此れなり。鈔ハも云り

宇賀郷郡家正北一十七里廿五步 所

凡今三十三町餘
一本七里三十五步

百本按造天二字衍字
信友云百本ノ按誤レリ
三十二丁ノ下ノヒラ見ル
ベシ

造天下大神命讓坐

カミム
讓一本讓按龍リ
字鏡太波夫留

神竈命御子綾門

日女命。尔時女神不肯逃隱之時大神伺求給

所是則此郷故云宇賀

沙トコロコレスナチ
財小誤
コノサトナリカレウガトイフ

鈔云以口與宇賀為本郷并東南國富西唐川別處川下并吞等處々
以為宇賀郷也。○綾門日女と王之邑日女と同。神門郡朝山郷の傳
小所造天下大神大穴持命娶給而每朝通坐と云ふ。此所ハ讓字
誤あるべし。此神の事ハ朝山郷小註下文ハ腦磯の傳あり。

即北海濱有磯名腦磯高一丈許上生松木云

至磯邑人之朝夕如往來又木枝人之如攀引

百本按多一古本多ト
カケリイヨ

自礖西方^{有訂}窟戶高廣各六尺許窟內有穴人

不得入不知深淺也^{フカサアサヲ}至此礖窟之邊者必

死故俗人自古至今号^イ吐^ウ黃泉之坂黃泉之

穴也^{アナト}

腦和名訓奈豆岐生一本坐小誤邑一本見見里小誤又叙日本紀小
引夢字あり土云又衍文○黃泉之坂と紀一書云泉津平坂此云
余母都比羅佐可こり蓋黃泉國ハ死たる人の去こころ言の意
ハ夜持モ子の約り三なりヤ三と體言ヨ三と動延モバヨモツト
なる夜食國をこころを月夜見命こ云と思合てなる伊邪奈美
神神避ありを伊邪那岐神追行給し所を古事記に追往黃泉國

こも追到黃泉比良坂之坂本こも所謂黃泉比良坂者今謂出雲國
之伊賦夜坂也こも伊賦夜坂と國の東こも意宇郡小揖屋村揖
屋社もる黃泉之穴と國此西北海邊こも揖屋こハ異所あり書
紀一書云^{一の卷}伊弉諾尊已到泉津平坂故便以千人所引磐石塞其
坂路と見え又一書^{十卷}伊弉諾尊欲見其妹乃到殯飲之處こあ
るを對見せハ實ハをこるの處をいふなりささく又孫の國こも云
書紀^{一の卷}素戔鳴尊云不可住於天上亦不可居於葦原中國宜急
適於底根之國こも諸神等遂降去多小次の本文小是時素戔鳴尊
自天而降到於出雲國云古事記小欲罷妣國根之堅洲國こも
て降り給し地ハ降出雲國之肥河上云ここり出雲を黃泉國と
根國こも云しハ伊邪那美神の神避給し國われと云なるべし或人
の曰根國の根とめと字少く峯國なり泉津平坂小以千人所引之
磐石塞其坂路こも山國小由るこも云て按根國こハ書紀^{一の卷}素戔
小いさかとの尊ハ吾當寢息請勿視又^{四十}與津彥戶將卧こもこハ

死て寢息所と云ふ。神避給て後小根國と云ふなり。さきハ伊邪
那美神の所ハ黄泉と云ふ素戔鳴尊の所ハ根國と云ふ母の根
國ともあり。又書紀一卷九小當遠適之於根國。又二極遠之根國。又三底
根之國ともあり。地下の事といふ。紀一書小殯歛之處
ともいふ。黄泉此字を。かり國と云ふ。地下の事ハ用ゐるハ左傳隱
公元年傳曰。莊公誓姜氏曰。不及黃泉無相見也。註。地中之泉。故曰黃
泉。又闢地及泉と見え。孟子曰。蚓上食槁壤。下飲黃泉。文選ハ宿黃
泉。下ハ云と。書紀一卷六曰。素戔鳴尊遂就於根國矣。又二居熊成峯
而遂入於根國者矣。さきハ神避給。事ハ古事記古本上ハ大穴
牟遲。神可奈向須佐能男。命所坐之根堅洲國と云ふ。參到給へバ。其
女須勢理毗賣出見。為目合而相婚。さきハ次ハ大穴の命負其
妻須世理毗賣云々。逃出之時。さきハ命追至黃泉比良坂と云ふ。傳以
書紀ハ根堅洲國ハ蓋片隅の國其地多々大神ハ黃泉比良坂の外へ出

唐詩注云。高穴在蜀之石泉
高生之地古碑刻有太白書
高穴二字今會稽亦有高
穴

給ハ次。又神避給といハ何の書にも見え。須世理毗賣の坐し所ハ
神門郡滑狭郷の傳ハ須佐能命御子和加須世理比賣。命坐。今時
所造天下大神命娶而通給と云ふなり。

○朝夕如往来又木枝人之如攀引と云ハ黃泉穴へ死た人此行き
中目ハ見えぬ。往来如く小道ミチ木枝ハ攀引如くたのみさる
なり。此穴を夢見する人ハ必死と云ハ傳へし。さきハ顯國ハ
人ハ入夏ハ不知深淺と云ハ。鈔云。黃泉穴者在川下村西。磯邊又宇
賀山。有井岩穴也。直下深不可計。知俗曰之黃泉穴也。

神戸里一本郡家西北二里一百廿步。出雲也。說名
如意宇郡。

一本ハ廿の字元。神戸里ハ。鈔云。神立子家北島井上。別名鳥屋
村等ハ箇所也。神戸社者神立村。万九千大明神之所座也。

寺 新造院一所。有河内郷中。建立嚴堂也。郡家正南

一十
本 鈔

三里一百歩旧大領置部臣布祢一本之所

造 今大領佐宜
鹿之祖父冥又宜

河字元本ハ非あり。一十字ハ鈔本ヨリ郷の程ノ凡合父下也。字
闕。新造院ハ鈔云河内郷中上郷城上寺觀音堂蓋是也。上郷
村今入神門郡中也。○旧大領ハ先任の人置部ハ神門郡置郷ニ依
氏布祢ハ名按出雲臣の人置を負。健部郷小出。る神門臣古祢
ガ後カ出雲臣ニ神門臣ハ同祖あり。佐宜鹿ハ名。
○有ハ在の字あり。

社
杵築大社

大穴持神の御靈社也。和魂を大和の大みじ小祭。夏神
賀。出式云出雲郡杵築大社名神。文德實録云仁壽元
年九月擢出雲國熊野杵築兩大神並加從三位。杵築ニ齋神社十二
所。鈔云杵築社。御魂社。御向社。出雲社。御魂社。尔豆伎社。同社。同社。

同社。同社。同社。伊奈佐社。以上十二社。是を延喜式ハ。
大穴持神社。杵築大社名神。同社大神后神社。同社坐伊能知
比賣神社。同社神魂御子神社。同社神龜伊能知奴志神社。同
社神大穴持御子神社。同社大穴持伊那西波伎神社。同社大穴
持御子玉江神社。因佐神社。出雲神社。同社韓國伊太氏神社。
こ記。諸國式内神社ハ違へるも何れも遠國人の知。け
き。鈔本の考
小。さ。つ。わ。ふ。

御向社

杵築ニ在式大神后神社。
后。ムカヒメ。向。ムカヒ。

出雲社

杵築ニ在式同。

御龜社

杵築
小在。

伊努社

伊努郷宮社七坐中。鈔云
林木村犬谷大神也。

意保美社

式同。鈔云意保美社宇賀郷川下村。
垂水大明神也。下文意保美濱あり。

在満云向ハ子字ノ誤
式ニ杵築神社ニ神魂
御子神社アリコレル
ベシ

信多神名大山傳二丁曾
支能夜社坐此佐加
美高日子余社即在此
山嶺トアリヤコレニヨ
リテ曾伎ト行ニまヤシ
伎ト波トヤヤルニ

云云曾伎大明神佐比
佐加美高日振命也○
平野有縣社多天德日
命也

曾致乃夜社

式云曾致能夜神社。鈔云所坐出雲。曾致乃夜社審伎乃夜社又式外支比佐社以上三社
鄉氷室村神名極山曾伎大明神也。山上大明神及推現宮是

久牟社

一本牟久式云久武鈔云出雲鄉出西村久茂社也。記云雲立騰ふ久茂のりみ。曾伎乃夜社

審伎乃夜社

式云曾致

乃夜鈔云所坐出雲鄉氷室村神名極山曾伎大神也。○紀云素戔鳴尊云降到於新羅國居曾尸茂梨之處ト何曾尸茂梨等の由有

社云式小次の社ハ韓國伊太氏神社也ト何也

阿受伎社

阿受伎十一社式云合鈔云遙堪村阿式大神也

美佐伎社

式云御崎鈔云在日御崎也小社中御前社同社百枝槐社等同所也。○社地ハ所謂熊成峯の北極陰の所也。以

埼日日の大神ト須佐能烏命を齋

伊奈佐乃社

式云因佐記云建御雷神天鳥船神

二神降至出雲國伊那佐之小濱いなさ濱ハ杵築の西海の濱也此社杵築小在

弥太弥社

一本放太放一本放支乃夜誤

鈔云弥太美社阿加多社伊波社弥陀社此五社式書美談神社同社比

賣邊神社縣神社同社和加布都努志神社印波神社按出雲大河自伊努志西落之日美談今在家村同也今東流後多隔成別村故号今在家遂附出雲郡美談

入指邊郡伊波神社見今在美談村餘外四社蓋可在今在家村同而遠水路之時遂爲己社手今則

阿我多社

式云縣神社同社和加布都奴志社共美談村小在しを流也

伊波社

式云印波下文伊余波同流亡

阿具社

式云阿吾鈔云河内鄉上阿宮大明神也

都牟自社

式云都武自鈔云地未詳

久佐加社

鈔云神門郡富濱村久佐加大明神也下來坂註

弥努婆社

弥一本故誤式云弥努麻地未詳

阿受枳社

阿受枳十一社中遙堪村阿式大明神也

宇加社

諸本宇加鈔本加守共誤式云宇加神社宇賀鄉小在

同阿受枳社

阿受枳十一社中以此社宇加小并べつるハ疑ハし鈔本布世の下小并阿受枳ハ今此阿式村也遙堪小續

此社の次第混たる其混るも今猶改る

布世社

式云布勢鈔云宇賀鄉布世大神也

以云加美支利、素等

神代社

式同、鈔云出雲神戶神
而式書云、出雲郡又或外有神代同社、此三社並以河有、此等而
埼神祠也、按、小多加毛利、の多字、脱、飯石、郡、小飯石、と多加毛利を

加立利社

立、誤字、式云加毛利、鈔
云出雲、神戶神代加美支利大明神、神守村宮

并べ、楯縫、小高守、社在、飯を高くもあがり出づる詞、伊勢國飯

高を延曆儀式帳、忍飯高

來坂社

前後來坂三社、式云久佐加
神社同社大穴持海代日古

神社同社大穴持海代日女神社、鈔云今富濱村枝村

來成大明神乎、以邊古為出雲郡伊勢鄉今屬神門郡

伊農社

同社

同地

同社

前後伊勢七社、中、鈔云伊勢鄉
林木村、大谷大明神、林木大明神

以云伊勢谷大明神在西林
木村、諸等、西林木推現
東林木有熊野推現、西林
木有朝村推現、八祖父
大明神、東林木八王寺味
相高、丹根及飯也、日乃
都麻、一西林木高產、美
等、比賣宮、一西林木有

西林木推現、佐子能推現、八祖父大明神、日乃都麻大明神、比賣大明
神也、式云伊勢神社同社神龜伊豆乃賣神社同社神龜神社同社比
古佐和氣神社意布支神社都
我利神社伊佐波神社等也、
鳥屋社、式同一本鳥屎、鈔云出雲神
戶北鳥屋村社と云り、按、小

式、此記亦社數同也

以云建部名方合

昔宮奈借不合等

鳥鳥の誤り、若、鳥屋社、た、ら、バ、宇夜都弁神社、少、健部郷神庭村、中
宇夜村、小、多、べし、さ、い、ど、宇夜鳥屋ハ相近し、

御井社

式同、鈔云漆沼郷、直江村御井大明神、是則大穴持、命娶稻葉、
ハ上比賣而產御井神、又名曰木俣神、○祝詞式、小座摩

余豆伎社

同社

同社

同社

同社

同社

余豆伎同社共、小六坐を鈔云杵築十二
社中、云、余ハ土、此古語、ま、く、土築也、

神賀詞、小八百丹杵築宮、て、小、同、言、余豆伎、と、支豆、支ハ、詞相似
て、事異あり、大社、中、式十二社を引、某社、不當て、事ハ能知、り、

阿受枳社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

古本ハ今
一、同社存

上件阿受枳十一社。式小載る。阿受伎神社。同社韓國伊太氏神社。
同社天若日子神社。同社須佐表神社。同社神龜意保刀自神社。同社
神阿須伎神社。同社神伊佐那伎神社。同社阿麻能比那等理神社。
同社神伊佐我神社。同社阿遲須伎神社。同社天若日子神社。總神社。
以上十一社。鈔云遙堪村阿式大明神也。曰杵築東四十町有遙堪村
曰篠地。○按杵築之遙堪の間に阿式村在。阿受伎ハ阿遲須枳の畧言。

來坂社前註

伊努社江イ

同社

同社

伊努郷林木村伊努七社中前註

彌陀ミタ彌ミ社ミ

美談郷流也。此社及小十一社共々今元前註

縣社アカタ

彌陀ミタ同ミ

斐提社ヒデ

式云斐代流也今元

韓銍カラカ社ミ

式云韓寬鈔云宇賀郷唐川村權現社也

加佐カサ社ミ

式云伊佐賀鈔云地未詳

伊自イミ美ミ社ミ

式云伊甚鈔云伊自美村今屬意宇郡

波祢ハネ社ミ

一本式云波知鈔云健部郷羽根村須多礼大明神也

立虫タチムシ社ミ

式同鈔云加立利社者出雲神戶神立村加美伎利大明神也。按仁多郡布勢郷小加美伎里社在。記云切散蛇又斬加具

土之頭等の事

以上五十八所

社數式

立虫ハ誤字成

並在神祇官

合

御前ミマキ社ミ

天照大神須佐乃男命

同御埼社ミ

二社日御埼小在

支豆キヅ支キ社ミ

前の杵築小註

阿受アウ支シ社ミ

同阿受支社ミ

同社

同阿受支とるべきを畧文也同ハ同地

同阿受支ミ社ミ

古本阿字脱

同阿受支社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

百未按コノ同社
一古本今二社才ホ

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

以上阿受支八社と小國社の本を校合て載せども此郡の小社六十四所ハ惣る小三社たゞ少同社數諸本同じくす

伊努社

伊努の伊字脱文訂説曰

同伊努社

同社

伊努郷小在ビ同伊努とハ阿

受支を畧伊努郷傳小赤食伊努意保須美比古佐倭氣命こゝ以神社形る爲し

縣社

美談村小在美談しを流亡

弥陀弥社

同弥陀弥社

同ハ同地

同社

同社の次第鈔本ハ混雜

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

同社

以上弥陀弥十一社美談郷小在しを流亡

伊余波社

式印波共流亡

都牟自社

同社

地考へ

弥努波社

式弥努麻地未詳

山邊社

同社

同社

以上山辺三社鈔云地未詳俗

同伊努社同社同社同社

傳云有杵築郷山邊赤人之塚故曰赤塚村按赤人ハ山部宿禰山邊ハ眞人を賜夏續日小出て異姓也さうと赤人ハ塚見る所かし赤塚ル其謂ふ

間野社

布西社 宇賀郷布施大神也

波加社 一本波知一本波如鈔本波加按久佐加社久を脱佐を波小誤

佐支多社

支比佐社 鈔云支比佐社在出雲郷氷室村神名極山審伎乃夜社同所古事記垂仁段云國造之祖伎比佐都美こ何系きひさも

同地神名火山の傳小伎比佐加美高日子命社在以此山云り

神代社

同社 出雲神戶神立百枝櫛社 一本櫛一本捲櫛字鏡須木鈔云御村在在事前註

四社共在日御埼同野波加以上六十四所今數る小六十一社在同佐支多三社者地未詳並不在神祇官社落文久鈔本七六十所

信里本ノ後スレニ二十四所ニ當リナキ考ヤ

山神名火山郡家東南三里一百五十步凡今十高一

百七十五丈周訂同一十五里六十步曾支能夜社

坐伎比佐加美高日子命社有イ即在此山嶺一本故

云神名火山

周下一十衍字坐字し鈔本小ハ元曾支能夜伎比佐の二社ハ式同きひさかゝる社の所小註國造の祖小々阿遲須根高日子命こハ別神あり鈔云以此山在出雲郷氷室村俗呼曰佛經山是也

出雲御埼山郡家西北訂同鈔本七里三百六十步凡今三里卅三町餘

高三百六十丈周九十六里一百六十五步西

フモトニハイハユル

下所謂所造天下大神之社坐也

郡家の方程諸本異あり。諸本鈔本郡家正北よりハ宇賀郷小當りて道程かゝる。一本西北廿七里三百六十歩三百歩と一里此度少く廿八里六十歩。杵築郷と方程合。今見る小山頂ル杵築大社北北山ここ小秀より高三百六十丈と此所を度なるべし。廿の字諸本洛文西下と杵築を指。○馬見烽ハ此山小なるむを脱文。鈔云以山自杵築始東歷菱根遠堪高濱林木國富北遇宇賀川下向西通井吞宇峠鷺浦宇龍浦等將示。旋千杵築大社其周旋路程凡十六里一百六十五歩。凡今十六里有餘也。稱古事記宇賀山日本紀熊成峯。以記曰出雲御崎山共以以山也。俗呼曰不老山又鰐淵山是也。西北以郡家路尺考之相應杵築今弥山趾是宇賀第一峯也。

訂云古事記所謂宇賀山是之

凡諸山野所在草木第一解百部根女委夜干

本州云射于一名鳥

扇和名加良須安布木商陸独活葛根薇藤李蜀椒榆赤桐白桐

推椿松栢禽獸則有晨風鳩山鷄鵠和名豆久見猪

鹿狼兔狝獺猴飛鼠也

川出雲大川源自伯耆与出雲二國堺鳥上山流鳥上仁多

郡横田郷竹崎村山名鈔云俗曰船通山祭五十猛神呼曰伊賀多氣大明神是也。○鳥上室原二山水滴て北流出仁多郡横田

村即經横田横田川室原三トコロ三處三處ハ仁多の郡家の処也玉嶺山より滴る湯此小川も流入三澤

鈔多出雲川河上鳥上山在雲伯兩邦多郡横田竹崎村俗呼曰船通山是之。所謂素戔嗚尊帥其子五十猛神降到於新羅國遂以填土作舟乘之東渡到出雲國横田川上河在鳥上峯蓋今船通山

是即奈模田々千五十陸
神信云伊賀多氣大明神
此川山仁多太原三郡到多
義村多義村今上阿宮村
自此往河内出雲云々月
伊賀々西折應伊賀村
云々會神門水海云々今
視之後西林木伊賀谷側
西轉屈往武志高濱栗津
堀江常松菱根池自其南
方通入南江田天島濱村
松下荒木園村大島村入
千神西水海後此又依須
多齒妙見山中間西流而
飯入千大海也此川或曰飯
川或曰肥川又或曰斐伊
大河是也
以云蓋開素盞鳴等天降
時見川上著流來尋上到
仁多郡布施々因依白々大
原郡久野村之場八頭坂
殺大蛇而娶稻田娘也
又古事記天皇御子本年
智和氣皇子令割嘴之
王忍上王二人到於出雲
神說大神還上之時肥川
之中作果標橋仕奉假
官而坐今時出雲因造之
祖名岐比佐都美飾青葉
山而立其河下將獻大御食
云此取出雲大河流杵築
也蓋假官者可作伊那
佐浦也又曰倭建命共出
雲建共泳肥川令中殺亦
此川也

三澤山々炭火
小川も流入

布勢

布勢山々湯託山よ
と滴る阿伊川流入

等四郷出大原郡坂

引沼村

此辺山々柳坂山より滴る
阿位川と鴨倉湯川流入

即經來次

大原郡湯村よ
と曲て北小流

斐伊

此郷より斐伊大川と云
飯石郡三万屋川流入

屋代神原

屋代郷三代村より大原郡海潮川小
須賀小川合西又流々斐大河より入仁

多大原飯石三郡の水流合三
代より實小大河と成て北流

等四郷

出雲郡坂多義村

郡の南郷今
上阿宮村

經河内出雲二郷

北流更折西流

入神門

大原坂湯村より北流通小
ち伊賀郷より西流

即經伊賀杵築二郷

入神門

水海

鈔云從西林木伊賀谷側西轉屈來武志高濱栗津堀江常松
菱根池又自夫經南江田天島濱村松下荒木園村大島村入

神門水海自夫
又飯入千大海
此則所謂斐伊河下也

上件の河流ハ天平
五年の地理なり今

ハ寛永年中洪水流々此川伊賀郷あり東小折美
談郷を流數々小分々各江海小入古今地理大變

河之西

邊

或土地豊渡

渡ハ沃なり秋鹿
郡も此誤字なり

土穀桑麻稔欸枝

欸々穎

是て草書より誤多し五穀ハ和名小私記を引て以都々乃太
奈豆毛乃と訓て書紀一書ハ以粟稗麥豆為陸田種子以稻為水田
種子とゆきハ皇國のハ是を五穀としひひ稔ハ字彙曰穀熟
曰稔古人謂一年為一稔取穀一熟按祝詞式年之ハ専ら稻ハ
事なり穎ハ穀の事なり紀一書ハ小秋垂穎をアキノタリホと訓ハ
小依て稔穎枝を伊奈保衣太阿利と訓ハ世人豊年を謂て穗小穗
の榮こいハ古ハ
百姓之膏腴園或土体豊渡草木

叢生也

或以下也迄十字一本の書入
本文小混体ハ體渡ハ沃の誤

則有年魚鮭

和名鮭佐
又俗用鮭

麻須

和名鱒一名
赤魚麻須

伊具比鮎

詩云鮎魚賴尾字東云浴鯉伊鮎按小
鯉と鮎ハ異あり此所ハ鮎ハ川魚カ

きハ鯉ハて俗
云みとひう

鱧

和名波無字鏡太比河魚小鮎鱧の字を當たるは
わうとてハ詩魚麗の鮎鱧とるふとて

等之類潭湍双泳

潭湍双泳フチセニナラビアソブと訓べられ共
魚のあふハもとてりのまふと用かし下文

百姓便河而居とる小依て泳ハ
漁れ誤りて漁人の業を云成べし

自河口

神門湖
小入野

至河上横田

村之間五郡百姓便河而居

出雲神門飯石
仁多大原郡起

孟春至季春校材木船汧汧河中

也校檢考汧汧を詔
汧汧詔訴小誤本

積ノ誤カ訂

江池

江頂池周二百卅步

一本工負池一
本卅を四十と書

須二比池周二百五十步

西門江周三里一百五十八步東流入于海有

大方江周二百卅四步東流入于海有二江源

者並田水所集矣東入海三方並平原遼遠多

百本按一古本ニ
江頂池ノ一條ナ
クテ
王負池周二百
卅歩
トアリ

々鈔云此川出出雲御崎山内宇賀山第一峯杵築今
弥山此川合流鯉淵寺川北流到宇賀郷川下村入大海

意保美小川源出出雲御崎山北流入大海有年
魚少

有山鷄鳩鳧鴨鴛鴦等之族也。

江頂池須々比池。西門江ハ鈔云蓋聞在出雲郡三部市久木庄原海邊。遂成耕田平原耳。○東入海を一本東方入干海と書方字非。

東入海所在雜物如秋鹿。說也。東下方字何本ハ非古本ハ元

北大海宮松崎。有楢縫与出雲郡堺。

崎ハ鈔云楢縫郡古津浦与川下浦堺也。川下古為出雲郡今屬楢縫郡。

意保美濱廣二里一百廿步。鈔云意保美濱有古津川下浦上文意保美社在。

氣多島。生紫菜海松有。氣多島今以下御嚴島也。次第北浦ハ東より西よりなり。

氣多島三字脫。本ハ有。鯢字鏡女久地良。螺子和名佐々江子字補。粹甲羸漢語抄字仁。鯢螺粹一本鯉堺蘇一本堺蘇甲。小誤。島楢縫堺。

井吞濱廣州。諸本二步。今猶目浦。

宇太保濱廣州五步。宇字元本ハ有。井吞字太保。今作宇岬云。

大前島高一丈周二百五十步。生海藻。

周下一丈廣。とる本ハ非。前文島ハ周を先ハし高を後ハし。此所ハ轉て高周と次第す。山の度例ハ准。けだし島山。

腦島。生紫菜海。藻有松栢。大前島腦島ハ鈔云在宇岬与鷺浦之間。腦和名奈豆岐。

鷺濱廣二百步。

黒島一本、生紫藻

手結濱米打、二十打廣廿步

介比埼ニヒ、四十打長一里諸本步廣廿步崎之南山打本東西通

戸フネカヨヘリ船猶往來上則松叢生也シゲレリ

黒島手結濱介比埼鈔云在鷺浦浦宇龍之間浦○介比埼の景狀文意通

海其西ハ又山埼何なり二つの埼の間迫戸なり故此文本東通ハ誤字あり南ハ海西迫戸上ハ山字を寫し誤り入海ハ今ハ宇龍

宇礼保今字、宇龍浦廣七十八步船ガリ廿許可泊

山埼高卅九丈周一里二百五十步有推楠模抄

子負島コオヒノ磯

大埼濱子負大埼ハ鈔云在宇龍与御埼之間廣一百五十步

御前濱ミサキノ廣一百廿步有百鷺濱宇礼保濱御前濱等ハ鈔云古出雲郡今属神門郡

御嚴嚴打、一本島生海意保美濱以下御嚴島迄十六分所ハ以浦小多御厨家島以下園迄十分所ハ西浦の岸小多

御厨家島ミクリヤ高四丈周廿步有松

周字无本ハ日ろし鈔云御嚴御厨家以下迄等、島共在日御崎海中園自日御崎到并築伊那佐濱之間也按海産多故大神の御厨所あり

百本按御前濱一古本作御前崎

等二島

有鬚石花

等々島ハ鈔云蓋今舩島而在日御埼町計西海

誤ウ石花ハ和名勢附石生

此云リ島根ハ海産小註

中吹島辺御埼漁子捕鰯魚元貢○鬚ハ顯カトモ

於此崎迎

怪聞埼長卅步高卅二步

有松

怪鈔本怪高廣の例

意能保濱廣一十八步

栗島

生海藻

鈔云怪聞埼意能保濱栗島黑島這田濱二侯濱門石島等自御埼到杵築伊奈佐流之島崎濱磯也伊那佐南經赤塚湊濱直至蘭松山止矣

黑島

生海藻

這田濱廣一百步

二侯濱廣九十八步

門石島高五丈周四十二步

有鷺鷥鈔本鷺鷥

蘭長三里一百步廣一里二百步松繫多矣即自

神門水海通大海潮長參里廣一百二十步此

則出雲与神門二郡坂也

鈔云蘭長三里一百步今九町餘廣一里二百步今九町二十間蘭古出雲郡今神門郡中今白蘭妙見山松樹茂鬱白砂之地也此山有伴美豆努志令社往古神門水海大津埋而所殘水沃今云神門水海是也上古出雲大河与神門水河合入神門水海經蘭山与枕須美之間以西流入于大海故此外為出雲神門二郡之墟今大河從伊勢与東流到沼田入東水海神門小川者到妙見山北折蘭山与湊屋中間西流入大海也所謂神門河者今古志川是也

蘭在意字の文小蘭之長濱と記神門郡水海の文小蘭松山と云わ。此所も蘭濱と云べきを蘭との云しむゆ。大海潮を鈔本ふハ大海異潮江と云。長廣ハ水海の流ハ潮海ハ入間を記。爰ハ伊奈佐濱とべきを。伊奈佐ハ杵築の海濱の惣名と云別小記さぬり疑グ

四十八

人見えり。時代相近し。親族なり。
 ○置部ハ、神門郡置郷傳小志紀島官御宇天皇世置伴部云云。故云
 置郷。是ハ依リ伴部等後小置氏を負しなるべし。河内郷新造院嚴
 堂ハ、旧大領置部臣布祢之所造。今大領佐宜鹿之祖父と何事ハ此
 所の置部臣の名ハ佐宜鹿形なり。
 ○大臣ハ、姓氏錄左京皇別云。神武天皇皇子神八井耳命之後多朝
 臣と見ゆ。大と多と同訓。○又按、姓氏錄此如くなり。置と大
 ハ別々の姓なり。祖も異なり。此所ハ姓ハ姓氏錄の如くハ何
 らハ、大領少領ハ出雲國の入る。其もとハ出雲臣より分れ。何
 人々なり。即出雲臣の後ハ置部を負し布祢て人々大臣と
 不姓も有るなり。

神門郡 合郷捌二里廿 餘戸壹 驛家貳 神戸壹

朝山郷 今依里貳

置郷 一本 今依里参

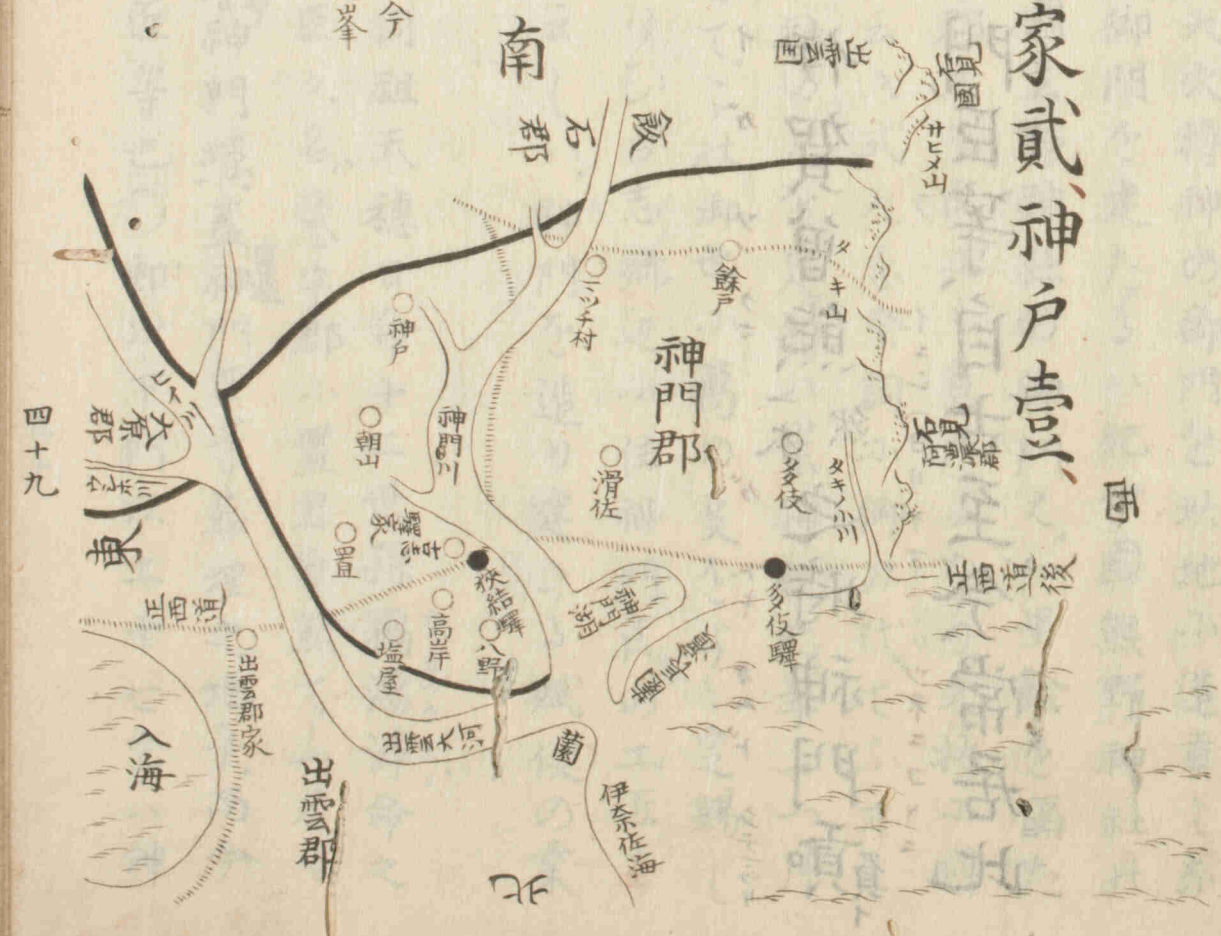
鹽冶郷 本字 止屋 里参

八野郷 今依里参

高岸郷 今依里参 一本今 字高峰

古志郷 今依里参

滑狭郷 今依里貳



カキ

多伎郷 本字 多吉里参

カキ

餘戸里 本字 最邑

カキ

狹結驛 本字 最邑

カキ

多伎驛 本字 多吉

カキ

神戸里

カキ

所以号神門者神門臣伊賀曾熊一本之時神門貢

カキ

之故云神門即神門臣等自古至今常居此

カキ

處故云神門

カキ

カキ

神門ハ神御門神門貢トハ蓋大穴持神の御門を以地小造貢シカ
らむ本宮より遙小遠ク拜の御門を建たるハ紀伊國熊野神社ハ
御門モ今道二里餘を隔大和國立野神社の御門モ一里餘を隔た
リ其神門の地ハ臣リ住しを郡モ氏モ負たるなり又按ハ神
門ハ神戸小々神田作る戸を云々式大忌祭詞ハ御刀代てふカ
民の戸モ代ハ田地なり神社の戸を定給ハ崇神紀七年十一月
定天社國社及神地神戸モ有て此御世ハ萬の夏をく定賜シ
なり鈔モ謂らく神門臣グ住らむ古志郷辺ハ住神門氏の工匠を
昔より傳りたる木工也こ云ハハ神門を造り建たる賦役の業
の残るなるべし

○神門臣ハ姓氏録云出雲臣同祖天穗日命十二世孫鵜瀧淳命之

後也崇神紀モ出○伊賀曾熊ハ臣ノ名意字郡小置君自熊てふ名ハ

有鈔云古志川東側有舊墓俗呼神門塚蓋神門臣等葬埋之地乎而今

往々有神門氏者或土民或工匠等也○即以下門以上十七字ハ神

門の示れ傳説ありて古事記、仁段小曙、立王菟上王を本年智和氣御子は副て出雲小到て大神を拜たむし時の文より菟上王造神宮てふ時の神門の傳り。

朝山郷郡家東南五里五十六步今令せ神龜命御子

真玉著王之邑日女命坐之介時所造天下大

神大穴持命娶給而每朝通坐故云朝山

中領世五ヶ村故曰朝山世五ヶ村者也然矣古朝山郷先之五ヶ村耳

朝山ハ鈔云當神朝山村併西馬木東宇奈手南野尻禰原等地以為朝山郷目錄云里二其一以野尻禰原宇奈手為一里其一以馬木村為一里今俗呼朝山世五箇村也稱下朝山之諸村者蓋中葉以有朝山氏某村○神龜命ハ高祖神なり前小註○御子名真玉著ハ万葉集小緒

とつゝ冠辭なり此所々玉の群集こりけ真ハ稱言着之玉を飾小着るをいふ王之邑日女ハ出雲郡宇賀郷の傳小所造天下大神命讓坐神龜命御子綾門日女命云々島根郡美保郷の傳小同大神娶高志國坐神云々奴奈宜波比賣命云々仁多郡戀山の傳小和志戀阿伊村坐神アイコアキ玉日女命玉日女命綾門日女玉之邑日女と玉之邑日女ハ神親も同じく夫の神も同じ奴奈宜波比賣ハ別神と思はる事と朝山ハ高志とハ通ひた事ハ所同地なり阿伊村ハ坐玉日女と朝山ハ坐玉之邑日女と地ハ異なれど全く同じ神号なり風土記ハ其郷のいひ傳へた事ハ小記云々色はなれバ同神号ハ功ハ所あり少ハかちる事多し此日女神等の事ハ書紀一の卷云事代主神化為八尋熊罴通三島溝楫姫或云玉櫛姫タミヅメ而生兒姫ヒメ踏鞴フミヤス五十鈴姫命とある玉櫛姫の古事ハ相似たり○此郷ハ傳ハ大神の朝毎小通給を負て朝山といふ万葉集十卷小子らが名小わけけろしき朝妻の片山きし小霞カハル云々朝妻ハ大和なり此記

信友母地名悉二字三書
例十六日置トアル本必ヨシ
日置トアル本ナリ
置ノ字ニ見ナレハ
誤モ出来ナシ

置郷郡家正東四里今今志紀島宮崇神天皇の宮所御宇天皇

之之字例御世置伴部等所遣來宿停而為政之

所故云置郷

置郷ハ倭名鈔日置ト書蓋後小改る。鈔云鹽夜村內伴部大井谷馬場神原等地也。蓋中世執鹽治氏國柄之時其氏族等分散於高岸鹽谷置郷三處以結構平第家故忘却置高岸旧號。
○志紀島宮ハ大和國城上郡崇神紀云三年九月遷都於磯城豐謂瑞籬宮欽明紀云元年七月遷都於倭國磯城郡磯城島仍歸為磯城島金刺宮按小此所の志紀島宮ハ専ら崇神天皇御代をさす。何者

此御代出雲小伴部を置給し事ハ紀小見え。崇神紀十六年小詔し多ひて出雲の神宮小藏たる神寶を奉らせ給ひし時出雲臣ガ遠祖出雲振根其弟飯入根を止屋淵ヤヤ少殺せ詔多て備津彦ト建停河別を出雲小遣ひし振根を誅たふ。其事を紀小故出雲臣等畏是事不祭大神而有間と見え。此時伴部を遣ひし大神を祭らせ政をもせさせ。其人々を置せ給ひし所なるべし。又云垂仁天皇二十六年勅物部十千根大連云。汝親行于出雲校定神寶而分明奏言之仍令掌神寶云。是二御代の間凡八十年ぐり。都より伴部を遣ひきたり。其後ハ物小見え。奈良都の御時ハ意宇郡の國廳へ遣ひきたり。政事多し。万葉集三小出雲守門部王思京歌。歌云。歌海のちごりの奇。此王ハ續紀六卷和銅六年正月門部王從四位下と見え。王也。又此後も有を遷せしと思ふ。ハ續紀三十卷光仁天皇寶龜六年小も。意宇郡の廳にふ。ハ。○土掠烽又軍團ハ此郷小もけいを今ハ其

所定り
なり

鹽治郷郡家東北六里

凡今廿町

阿遲須枳高日子命御

子鹽治毗古能命坐之故云止屋

神龜三年改字鹽屋

和名抄神門郡鹽治郷
今本治ヲ沼ニ誤

鹽屋郷ハ神門川の東出雲河の南ハ目録小本字止屋又夜半夜社ハ崇神紀十六年小飯入根を止屋淵少々殺事前小註

鈔云併鹽治内只谷今市大津来原石塚中村ニ北有武志大塚渡橋等以為鹽屋郷武志者古事記云於多藝志小濱造天之御舍而水戸神之孫櫛八王神為膳夫獻天御饗云今在武志村膳夫大明神是也と云也

鈔云来原村在阿世利記
書夜半夜淵昔日出雲河
祓誘身殺伊利振遊此
淵而給我害之血滅流
而入此池中故曰阿世利池
蓋以血曰行者是是武志
宮忌詞血行示則可書
血入池

○夜半夜てふ言の意ハ塩治毗古ハ多伎都比古也亦名ウ楢縫郡神名火山の傳小多伎都日古出て父神ハ同

○阿遲須枳ハ出雲郡伊勢ありの地名古事記ハ阿遲須阿遲志貴書ハ同畧て阿受枳と云今阿式村ハ高ハ下對

貴言日子ハ彦男子の称名記ハ日子根ハ奈延の勢也稱のネも同言ハ始の意ハ下文高岸小註言の末此意ハ秋鹿郡伊農郷小註親神ハ記云大國主神娶坐曾形與津宮神多紀理毘賣命生子阿遲須高日子根神見え御妻ハ楢縫郡神名槌山の傳小阿遲須枳高日子命之后天御梶日女命來坐多吉村産給多伎都比古命云

八野郷郡家正北三里二百一十步

凡今十八町半

須佐能袁

命御子八野若日女命坐之尔時所造天下大

神大穴持命將娶給為而令造屋給故云八野

八野ハ鈔云ハ野白枝小山也^{村ハ八野}白枝西合松^{下村}古出雲大河會水神門水海中心也後埋今成編戶^{八野}八野ハ八と借字少々屋なり大神娶したおひむこて屋造りし給ふを地名負男女せおひこて屋を造るるハ記云二柱神見立天之御柱見立八尋殿云々又須佐之男命作須賀宮こもる妻こもるまゝむ為なり

○八野若日女ハ記云大國主神亦娶神屋楯比賣主事代主神こある屋楯比賣ハ八野若日女なるべしすさのをの命ハ御子なるを記ハ親神のりまねり

高岸郷郡家東北二里^{今今所造天下大神御子阿}

遲須枳高日子命甚晝夜哭坐仍其處高屋造

可坐之即建高椅可^{二つの可字}登降養奉故云高岸^崖

神龜三年改字高峯^{岸抄}

和名抄神門郡高岸郷
今本高岸トアルハ誤
コレ神龜三年字ヲ改メ
タル合ハリサレハ本文高岸
トアル本トス

高岸ハ鈔云相當鹽冶村俗云高西地邊^後并西天神村東北渡橋村中^{阿利原以為高岸郷}入鹽冶村中^{按小字高椅を高岸小改}

○甚字ハ夜下なるべし之字ハ奉下なるべし可と而を誤○阿遲

須枳ハ此所を始りて末ハ畧て阿受枳て地名小呼阿遲ハ味

可美を云須ハ志と通語枳ハ城あり水城大城等の城は同阿遅

きハやぐ冠辞少々城高つづけい其城ハ高椅を立て登降

養育給ひり哭坐し夏ハ仁多郡三津郷傳小阿遲須枳高日子命御須髮八握于晝夜哭坐之辞不通余時祖神御子乘船而率巡ハ十島宇良加志賜鞆猶不止哭之こ何り按小神門郡小生おと年經て住給ひけい此神のこを書記^{二の卷三}小神戸^{カムド}劍こ名神戸ハ神門ありし劍なるべし末を始りて名を負ふハ

草薙劍の如し、御魂を大和の葛城の高賀茂に齎る。神賀の詞も見
えり。

古志郷即属郡家伊弉那弥命之時以日淵河築

鈔入古志國下恐脫佐
与布三字可考扶結厭餘

造池之今時古志國等到來而爲堤即宿

居之處故云古志也

和名抄神門郡古志郷

中古志村保知石大明神同
多氏神也此社古在保知石
谷寛永年中遷祭古志村
中瀬久茂郡加田中之藺山
是則伊弉那弥命也

鈔云古志郡家者從今弘法寺六町西北田疇俗呼言郷所蓋是也并
古志戸波知井官等以爲郷又云日淵河者蓋蘆波与井官之境
俗呼云保知石川按古志郡家ハ神門川の西小ありしと思へり
通度小正西道の出雲河より度る所又西七里廿五歩至神門郡家
即有河記しとまバ郡家ハ河東小ありし所也今此河流ハかた
りるもみえり

○古志と号付る所以ハ狹結驛傳小古志國佐與布云人來居云
其所以來居者如古志郷也こあまバ日淵河の水をひきと池を築
今時越人佐與布等來とて堤を築即宿所なりとて越國の名をとり
て神門郡小古志郷と又其人の名を取て狹結驛と名づく遙は遠
き越の國より來宿居る所以ハ意字郡母理郷の傳小穴持命越
八國平賜而還坐こけり又古事記小穴持命を八千矛神とまを
志し時八千矛神將婚高志國之沼河比賣幸行之時到其沼河比賣
之家歌曰云くとる婚したまひ其神之適后須勢理毘賣命甚爲
嫉妬あご見えさて沼河比賣ををく出雲國へ上りまをこハけり
れど上り給し趣ハ文面とてゝ殊小平賜し國ハ越人の出
雲へ上るハハ明らけし越後國小古志郡を頸城郡小沼川郷奴
奈川神社もろ

○伊弉那弥命ハ大八島をうけたまひ大神なり其命時こ
こ上代をさる詞なりされど上つ代の受れこみいざぬの命ハ

時云ふハ何所由多しむをよくも傳へし。鈔といへらく
古志郷以古志村保知石大明神為氏神。此社者在保知石谷寛永
年中遷祀古志村中栗皮塚田瀧之園山。是則伊佐。○美命也云云。

滑狹郷郡家南西八里。凡今一里四町須佐能袁命御子。和加

須世理比賣命坐之。今時所造天下大神命娶

而通坐時彼社之前有磐石其上甚滑也。即

詔滑磐石哉詔故云南佐神龜三手改字滑狹。

滑狹ハ鈔云神西市場。二部三部常樂寺畑村等也。所謂滑磐石者在
神西村岩坪山。岩坪大明神高倉權現之所座。是則祭須世理比賣与

和名抄神門郡南佐郷又滑狹郷今本滑狹ト
ルハ誤シ

神西有田中大明神社也又

大穴持命。則此記所載之式内那賣佐社也。且有神西曰神待之處。聞大穴持命来通須

世理比賣命之時相待比賣于此處。故名焉。波加佐社。神待社也。良

有羽加佐山。又神西字或書神妻。或書神在。按小神西村岩坪ハ記座

○滑磐訓奈賣志波。南佐訓奈賣佐。南字を用るハナハのミ。延音を

賣小通ハし。佐ハ志波の約ミ。延音ハナメシハ。波ハ

渡比上畧あり。岩小苔生ハ滑らある。吉野川の常滑小同。和加

須世理比賣の和加ハ若々しき女の姿をわむ。詞男女共ハ。和加

和加何云。古事記云。大穴牟遲神。參到須佐之男。命之御所者。其女
須勢理毘賣出見。為目合而相婚。又云。我之女須世理毘賣。為嫡妻。こ
も見え。り。をせり。ひめの命。此處小坐し。ハ。記小脱て此郷の傳
へ小残まり。須世理云言此意ハ。宣長云。自ら進。く。夫小婚し。給
ふ。を御名小負し。こ。よく叶へ。又。火比盛。小然。時進。く。出給。ふ。を火
須勢理命
こ云小同。

多伎郷郡家南西廿里

鈔本廿七里と
多ハ蓋誤

所造天下大神之御

子阿陀加夜怒志多伎吉比賣命坐之故云多

吉神龜三年
改字多岐伎抄

和名抄神門郡多伎
郷今本多伏トアル誤

鈔云多伎者當口田儀市郷又書田儀川於多伎小川水多伎併與田儀口田儀小田多伎久村等以為郷也目錄里參者指田儀小田久村也三處也多伎者本郷而又兼驛家下文一十九里則當多伎村加夜堂以所有多伎比賣神生也阿陀加夜怒志多伎吉比賣の御召れ意ハ大高屋主湍姫なり阿と於と通さる宮造ハ高きをよとす景行紀小日向高屋てふも有多伎ハ御母の名多紀理を負理と吉と入替る多伎吉と云水とやき所を多紀と云て多紀理多紀都多伎吉皆同意なり後小地名小負夏ハ高岸郷小同アタカヤと云

多伎

地名有べきを畧て今ハ加夜堂と云あり出雲の字を國人アタカヤと訓此名ハ俗言小の殘まりものなり此神の事を古事記小大國主神婚坐習形與津宮神多記理毘賣命生子阿遲鉏高日子根神次妹高比賣命本名下とる高比賣ハ阿陀加夜比賣あり記ハ畧けで多伎の地ハ神門川の西石見國坂迄古道卅三里海辺の道を行時ハ正西なり下文乎須戊ハ此郷中より其跡を今大須と云

餘戸里郡家南西卅六里

元今
五里說名如意宇郡

卅六里今之六里今橋波村當焉然即
鈔云併橋波吉野高津屋東村ハ幡原一窪田佐津目山口等以為餘戸里也和名鈔華餘戸名伊秩以為郷

狹結驛郡家同所古志國佐与布云人來居之故

云最邑神龜三年改字狹結也其所
以來居者說如古志郷也

和名抄神門郡狹結郷

結下也。字。鈔本。元。狹結。馭ハ。鈔云。古志郷今古志市也。○佐與布ハ。越國人之名。與。由。通。古志郷小註。

多伎驛郡家西南一十九里

凡今二里廿三町

說名改字如多岐郷也

馭ハ小田村小當。多伎吉比賣命坐。多伎郷此傳の如し。小字。多岐ハ。鈔本。小依て補。

即前主。說名即如多岐郷

神戶里郡家東南一十里

說名如意字郡

此神戶諸本關て何の神戶わろ。知。し。今伊勢内宮經雅此本と。鈔本。中の説を以て補。通道を考ふる。飯石郡須佐小。地。形。鈔云。所原村。中今云神所。蓋。此地也。云云。

寺新造院一所

有在字

朝山郷中郡家正東二里六十

本信傳曰。昔在空海大師掌來此國。止于此院。年書和字。四十七字。以遺于此。寺。不知矣。余也。聞此寺中。

步建立嚴堂也。神門臣等之所造也。

鈔云。神門。臣之所造。蓋今神門寺也。古。為。密宗。近世。作。事。修。念。仏。者。有。耳。今。以。方。路。細。考。之。置。郷。内。非。朝。山。郷。不。審。云云。

木立嚴堂

新造院一所在古志郷中郡家東南一里刑部臣

等之所造也

本堂嚴堂也

鈔云。蓋今弘法寺乎。自郡家。方。路。實。元。天。手。日。者。不。知。何。宗。後。作。因。曰。弘。法。寺。者。也。於。佐。加。部。連。署。小。註。本。堂。嚴。堂。ハ。刑。部。の。上。小。乃。例。り。

社美久我社

式同。鈔云。口田儀村津島大明神也。○水海文云。園。松。山。の。天。起。松。山。南。端。美。久。我。林。按。小。久。村。松。山。等。近。き。社。う。

阿須理社

式同。諸本須を濱小誤。鈔云。來。原。村。權。現。而。在。阿。世。理。池。側。ア。ス。リ。と。汗。入。セ。イ。約。シ。を。ス。小。轉。誤。入。根。を。殺。セ。し。止。屋。池。辺。云。

命神社也按式佐志武神社次多伎藝神社多伎神社と并て、遙後小午日命社ハ多々多支根とハ別なり、大須ハ平須成の處。

阿利社

阿利二社、式云阿利神社、同社坐加利比賣神社、鈔云二社者高岸鄉天神村与渡橋之中路阿利原森神社也。

阿如社

如ハ利

如ハ利、同阿利社、式阿祢神社、書鈔云阿如社者滑狭郷二部村姉谷大明神也、式書鹽治日子命、御子焼大刀大穗日子命

神社、云云、以社天穗日子命、阿如ハ阿保、誤、播磨風土記神集の所、小出雲國阿菩大神、同神、ハ、オ、ア、ト通例、

國村社

式同、諸本國持小誤、鈔云在多伎郷久村、比津毛利大神也、奈賣佐社、滑狭郷神西村、岩坪社、前小註、

阿利社

前註、大山社、鈔云、矢野郷小山村、因山社也、故名大山村、俗作小山、謬、式同、

保乃加社

式富能加、鈔云、在鹽治郷前註、多吉社、多伎取多伎大神也、前註、

夜牟夜社

同夜牟夜社

前註

比奈社

式比那、鈔云、鹽治郷水塚

村比奈原太神也、以上廿五所、式廿七坐、けうち佐伯社、蓋比奈等理、畧、並在神祇官、焼大刀社、以記の外、

鹽夜社

火守社

國村社を鈔云比津毛利大神と云、

同鹽夜社

以上三社、鈔云、

在鹽夜郷中、同、ハ火守同所の謂、

久奈子社

前文久奈爲、子と云、

同久奈子社

前註

加夜社

鈔云、多伎村加夜堂也、神賀云大穴持命乃申給久、已命乃御子賀夜奈流美命云々、高比賣の事、加夜、阿陀加夜怒志多

伎吉比賣、

小田社

鈔云多伎郷中、小田多伎、

波加佐社

前註

同波加佐社

多支社

鈔云多伎郷須奈谷大明神也、

多支々社

百本按二神名式神門、鹽治日子命、御子焼大刀、大穗日子命神社、火守、コレハナチ火守社ナリ、此等諸社、蓋比奈等、鹽治郷中、谷大津、萩原、石塚中村、朝倉、今市等、神社、予暇日、詰問社家、者、曰、只谷大明神、今市山、玉朝倉大明神、大津、龍王同所、辨才天而不詳、故闕焉、

加佐社者神面村田仲大明神、同村神待社也、又、多田仲大明神、都田、度、細、而、凡、荒、所、得、波、加、佐、社、同、社、是、也、昂、在、于、波、加、佐、也、

鈔云、在伊秩郷餘戸里橋渡村田中大神也。按神門川此
橋場須佐へ通道。橋を波須と云ハ。万葉畔を阿受と云同。

以上十二所並不在神祇官。

山田タ俣山マ郡家正南一十九里

粉有拖

二十九里者今三里許
村

田俣山も、又田俣山云南
ニアリテ今ノ路程ニ里許ヨリ遠
キ所ナレトモ西南ニテモ三里所
ニ及所ナレシバ立村ノ内ハア
ラス田代山ハ古ノ郡家ノ跡ヨリ
ニ里許ヨリ外ナレ

郡家南西ニ多伎郷あり。田俣と田儀の誤ハ。鈔ニ在于乙亥俗呼云。

長柄山郡家東南一十九里

粉有 搵

鈔云長柄乙
立村山名也

吉栗山郡家西南廿八里

有^ニ挽^ニ粉^ニ也。所^キ謂^{ツクル}所造天

吉栗山。鈔云伊秩郷一窪田。村中久利原也。有^山此山足。所造天下大神之御子阿陀加夜怒志命。座社。○材一本狹小誤。

信友撰此吉栗山ヨリ冠山ニテ
ノ七山ノ分書ニ大神之云ト云ハ
吉栗山ノ条ニ所造天下大神
氏アリテ大名人選神シ云リ
サテ其七山ノ玄肆ニ宮材ノト云

サテ其七山ノ古事ニ宮材ノトモ屋ノト廊軒トハ蔭ト病ト痛積ト痛折ノトアリテナキ其古事ノ事キ傳ノアリケンヲ既ニ其傳ヲ失ヒタルナルベシ

○宇
○比
○多
○伎
○山

郡家東南五里五十六步

大神之御屋也

宇比多伎山五字一本与鈔本を校補御字諸本郷小謬御屋ハ御刀
 屋なり。飯石郡三刀天郷小大神之御門即在此處（山名也）と云ふ。鈔云在
 以山（山名也）者神朝山郷合祭所謂真玉着玉之邑日女命与大次持命（之）九社
 俗呼曰宇比瀧大神（明是也）。以下五山と宇比多伎の前後小多宇比とい
 うかてうねび等の名も異なて、杵築以前
 大神の本宮也所り神所村てふも此辺と聞つ。

稲積山イナヅミ郡家東南五里七十六步

大神之稻積也

陰山郡家東南五里八十六步

大御陰神也之

稻山郡家正東五里一百一十六步

東有樹林三方並礧也大

陰山信友按ニ下ノ谷山ヲ
大神之谷也トアルニヨリテ
オモフニ此蔭字カゲトヨ
ムヤレ其ハ大神ノ以頭ノ装
ノ即蔭トナルヲ統紀ニ垂
録ス此曰即蔭トアルニ
コ蔭ニ受ハ古事記
傳廿五ノ五十二ニ委
カケルハ神冠ノ字脱セルカ

梓山信友梓此山七ノ
中指積山稲山アルニヨリテ
オモフニ此山名ヲ一本ニ梓
山トアリ又本ニ多言ニ大
神ノ御稲梓也トアルヨリ
テ訂スル
○梓山多ク南西並大神
之御稲梓也
如此改スル

百本按ニ御稲御梓御冠
ノ下ニ各也字ヲ脱セルカ諸本
ニ見エザレハ大神云々山也又
大神之御屋也ニタ大神稲積
也ニタ大神之御陰也トアルニ
ヨリテ云フ

神御稻也

梓山郡家東南五里二百五十六步

南西並有樹
林東北並礖

也大神

梓一本銚又梓字鏡梓保己銚同

御梓也

御梓一本御稲梓之字例小依補

冠山郡家東南五里二百五十六步

大神之御冠也

鈔云以上五山者皆在宇比多伎左右前後山名也○稻山梓山此
礖ハ出雲河小足引るる又礖此馬し謬り

此郡ハ所造天下大神の所由を殊ましく傳へたるバ上件ノ山々
も今少傳るべきを畧する蓋此所大神の本宮なるべし何者朝
山郷小ハ王之邑日女命坐て大神毎朝小通給ひハ野郷ハ八野
若日女命坐て大神娶給ひむと屋を造らせ給ひ滑狭郷ハ后

須世理比賣命坐て大神通給ひ高岸郷小ハ御子阿遲須根高日子
命の高屋有蓋石郷小ハ郷孫塩冶毗古能命坐あを思ふ小宇
比多伎山ハ御屋陰山ハ御陰と何事ハ始の宮所なりむ宇比多
伎此南小神所村有即神戸なり五つの山此所由を試小いむ先
大穴持神顯在る去給て後の祭祀を古事記云櫛八玉神化鷄入海
底咋出底之波余而錄海布之柄作燧白以海尊之柄作燧梓而鑽出
火云是哉所燒火者云々を思ふ小神代此趣をいむ宇比多
伎ハ鷄火燒る櫛八玉神御屋ハ竈あり其火炬屋の山となり稻積
稲山ハ大神の和稻荒稲少積置たる食物の山となり陰ハ天の
御陰日の御陰こから給御陰此陰山となり梓ハ御採物其梓ハ
保己山とあり冠ハ御裝束物其冠ハ加夫利
山とありき傳へたるなり

凡諸山野所在草木白歛

一本發又散歛ニサ冠畧

桔梗

和名阿里乃比布木
字鏡加良久波又阿

佐加 藍漆龍膽和名尔加奈又 商陸續斷和名波美一名於仁乃夜加良 獨活白

正和名加佐母知又與呂比久佐 秦枌字鏡木部伊太知枌 百部根百合和名由利 卷柏和名咄部伊波久美

又伊波古今字 石斛升麻一本雷九例无 當歸和名夜麻世里又於保世里 石葺和名伊波乃加波

麥門冬杜仲細辛伏苓葛根薇蕨藤李蜀椒檜

杉榧赤桐白桐椿槻柘和名桑柘豆美 榆檉字鏡黃檉支波太 楮穀木也和名加知

禽獸則有鵠鷹和名太加 晨風鳩山鷄鶉鵲和名之女諸本鵲 狼猪

鹿兔狐獼猴飛鼯也

川神門川源出飯石郡琴引山北流即經來島波多

須佐三鄉出神門郡餘戶里大門立町 間土村今橋波村 即神

戶朝山古志等三訂 鄉西流入水海也神門湖如畫 則有羊

魚鮭ユケニス 麻須伊具比也

須佐下三鄉の字諸本互は落文○の傍經三の字を考補琴引山ハ飯石郡來島郷由來村山名

多岐小川源出郡家西南卅三里多岐鈔本 山北流

入于大海有甲イ 鈔云川耆田儀川也山耆田儀多岐 深山也○此山川ハ石見壩小近

鈔云神門川水源出自飯石郡來島々赤穴里磐鉏川由木村琴神山記曰琴引山是也又飯石郡須佐川水上又同郡有波多小川此三水合一過神門郡餘戶等之數所西流而入于水海也所謂間立村橋波村神戶里所原村水海神西湖水也

以云間立村者ハ立村也神門川不經橋波而直流于古志川注非

来食、信持出雲口造神
壽三白鶴、生而調能玩
物空、うーとアリテ鶴ヲ
献ル例アリコモ據アリテ
キ三

百本按下ノ六字一古
本ナシ

池宇加池周三里六十步

鈔云古志郷宇加池。○
周字无本ハころし

来食池周一里一百四十步

有菜。仁紀云。譽津別皇子見
来食訓久々比。鵠也。垂

鵠得言ころく後鳥取連祖天湯河板舉遠望鵠飛方追尋
詣出雲而捕獲云々蓋以夏の所由有る名小負池あるべし

笠柄池周一里六十步

有菜。鈔云俗云古志郷知
井官荷佐加羅池也

刺屋池周一里

止カ訂刺イ

刺一本判。鈔本刺。又一本判。鈔云鹽治郷只谷防
堤也。按崇神紀小出雲振根が茅飯入根を止屋
淵。小く殺夏見えり。此池夜半夜なるべし。刺判刺各刺字の誤也

刺以丹切鹽

海水 神門水海郡家正西四里五十步周卅五里七十

二本

●神門水海。今廿四町五丁間。周々今五里卅一町十四間。蓋夫
達今之村落。以量古之碧湖。大抵則郡家正西今之廿四町餘。知井
宮渾村當焉。此

四步

凡今四里卅二町餘。水海の古。此水際を量度。郡家西知井渾
村。始鈔云。遠神西三部二部。大池板津佐須。弥西。蘭溪。荒木

濱入。南修理。免菱根。遠堪。常松。江田。松下。横引。下庄。大島。知井。渾村。
西渾村等諸村。悉以為水海中云々。昔ハ出雲大河西流。て此水海小

入。寛永十年。頃洪水出。て堤を破。て東方の入海。は流入。志わして水
海のさ。今見る。小い。やいと。ゆせ。り。彼古川の地。此水か。り。さ。り

て。少。年。経。る。を。小山村。三木。與兵衛。云人。出雲。郡。小溝。を。堀。と
海。小通。し。つ。ま。む。古川の地。此水か。り。さ。り。て。田地。二千石。計。を。新。墾。志

たり。其。堀。た。る。溝。ハ。杵。築。の。今。此。堀。川。里。水海。則有。鰐魚。鎮。仁。
也。鈔。云。云。出雲。ハ。殊。小。水。多。國。也。裏。抄。之中。則有。鰐魚。鎮。仁。

須受。枳。鮒。玄。蛎。也。即水海与大海之間有山。以下
蘭松

長。廿。二。里。二。百。卅。四。步。廣。三。里。此者。意。美。豆

見社是也
以云或曰元和三年三木与兵衛
奈杵築山家地利北方
池沢为田菱根村入村南濱

村八島村江田村以上五ヶ村二
千軒斗新田是也

努命之國引坐時之綱矣意字郡の文小註今俗人号云箇ナツケイフソノ

松山社有り地之形體壤石並無也白沙耳一本手積上

即松林茂繁一本繁茂四風吹時沙飛流掩埋松林今

半埋半遺恐遂被埋已与起松山南端美久我

林式美久賀神社鈔云俗云妙見社妙見菩薩主星紀纂疏說以經

ハ經津主神といちゞ是ハ小隨べし

盡石見与出雲二國堺中島埼之間或乎須或

陵磯

水海并箇松山ハ圖の如し意美豆努命ハ意字郡小註○壤玉篇云

地之緩肥曰壤字鏡云填壤也古江豆知繁一本繁小書ハミ

○中島埼ハ鈔云田儀与石見島津屋之堺源藏松以北海蔵不ミ而可也云云今此

地を見る小神門水海あせ々箇の松山ハ昔々ハ変りたるさお

也今も白砂の積りかあせ々松樹を埋まむと云るさま古も今

も同田儀小川の辺小田儀馱多て東西南ハ山北ハ荒磯浪打々セ

須々いふ卷末烽の下成此所ハ乎須を它波小誤陵礪ハ乎須
小属たる礪あるべし今ハさる名此礪あり

凡北海所在雜物如楠縫郡說但无紫菜

小水誤カ

鈔云今天津之川堰也

通出雲郡堰出雲河邊郡家東北七里廿五步九今川通飯石

郡堰堀坂山郡家南東鈔云神戶里所原村与飯石郡一十

九里九今二里通同郡堰与曾記村廿五里一百七

廿三町

紀抄

十四步九今三里廿町弱曾記村ハ蓋餘戸の小里此記此餘戸ハ倭名鈔伊秩郷なり伊秩より石見國川相郷小通又飯石

此郡家小も通鈔云曾記村當角井村四津見村と云里按今も飯石の郡家多祢近小曾木村有通石見國安

鈔云今五里大町町奥田後村山也

農郡堰多枳々山郡家西方在卅三里九今四里路常

多枳々神社

卅一町

有刻

信友序
刻ハ類聚國史ハ十政理
部ニ云六宰府言開刻
之設本施共偽云

通同安農郡川相郷卅六里徑常刻

つや口小

古本

不有但

當有政時徑刻を住引小誤本有徑ハ步道川相郷小通徑ハ郡

推置耳家西南伊秩山口を經て出るなり此道ハ佐比賣山

此北を越川を渡る川相

鈔云川相郷界廿里又今六里山口石州多根村之界歟

前件五郡カミノタリ伍イ並大海之南也

島根秋鹿楠縫

水カ

郡司主帳無位刑部臣

大領外從七位上勲業神門臣

擬^小少領外大初位下勲業刑部臣

主政外從八位下勲業吉備部臣

官位ハ意字郡小註。○刑部ハ和名於佐加幣允恭紀云忍坂大申津
姫の御名代なり。刑部省ハ字多倍多々須都加佐と訓さす。此所
ハ面名代ハ依古志郷新造院ハ此臣の造しなり。○神門臣ハ出雲
臣同祖伊賀曾熊之時神門を負夏郡の名を説又小註朝山郷新造
院ハ此臣の造し夏見也。○吉備部臣ハ出雲郡神名火山坐役比佐
加美の末り又國造之祖云役比佐都美てふも有り。蓋吉備國所生
の人。

110X
425
3